

# リアホナ



表紙の記事

ジョセフ・スミス  
生誕200年を祝う  
2, 18, 20ページ

夫婦宣教師

伝道に出るべき理由  
26ページ,  
「フレンド」12ページ

クリスマスへの

カウントダウン  
「フレンド」8ページ

リアホナ 2005年12月号  
第7巻第12号(25992 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)  
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,  
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード,  
ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング,  
ディーター・F・ワークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュコウト

企画編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーク

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・パレット, ジャナ・パトラー,  
ライアン・カー, リンダ・ステール・クーバー, ラリオン・ポーター,  
ガート, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・パル・ジョンソン, キャリー・カステン,  
メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン,  
ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール,  
レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリー, ジャネット・トーマス,  
ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーテル, キンバリー・ウェップ

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ビーターズ

デザイン・制作スタッフ:ハワード・G・ブラウン, トーマス・S・チャイルド,  
レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニース・カービー,  
タッド・R・ビーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッド,  
クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレイグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小若5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール: cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉「羅針盤」または「指示器」の意は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, クロアチア語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアン語, タイ語, タガログ語, タミル語, タミル語, 中国語, チェコ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2005 Intellectual Reserve, Inc. 版權所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines December 2005.

Japanese. 25992 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

December 2005 no. 12 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

# リアホナ

## 一般

- 1 大管長会クリスマスメッセージ
- 2 大管長会メッセージ——ジョセフ・スミス・ジュニア 神の預言者、偉大な僕しもべ  
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 12 福音クラシック——ほんとうのクリスマス 大管長 ハワード・W・ハンター
- 16 ある家族のしんぶんしんぶんのしんぶんしんぶんについての証あかし ドン・L・サール
- 18 ある預言者の人生——揺籃ようらんの地 パーモント州シャロン
- 25 家庭訪問メッセージ——イエス・キリストの贖あがないを喜びとする
- 26 熟年伝道の祝福
- 30 家族を強める——状況に適應する
- 32 袋いっぱいいっぴいの食べ物と20マルク マイヤ・カーリナ・マキネン
- 36 大管長会定員会 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 41 末日聖徒の声
- 48 読者からの便り

## 青少年

- 7 アイデアリスト——聖文を読んで過ごす、クリスマスの12日間
- 8 いつも救い主を覚える 十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング
- 17 ポスター——10パーセントと心のすべて
- 20 ジョセフ・スミスの家系図
- 22 質疑応答——友達は、ジョセフ・スミスの話を信じなくてもよいのなら、教会に入りたくて言っています。どのように答えたらよいでしょうか。
- 35 短いメッセージ
- 46 御存じでしたか?

## フレンド

- F2 喜びよろこの季節——大管長会から世界中の子供たちへのクリスマスメッセージ
- F4 分かち合いわかの時間——たくさんおんがくのことにかんしゃしています マーガレット・S・リファース
- F6 デビッド・O・マッケイおんがくだいかんちょうのしょうがいから——音楽のおくりもの
- F8 クリスマスアドベントリース エリス・ブラック
- F10 預言者ジョセフ・スミスの生涯しょうがいに関する重要な場所じゅうよう——ブリトニー・シェツェラー
- F12 ナイジェリアのクリスマス ロリ・モーテンセン
- F15 特別な証人——ディーター・F・ワークトドルフ長老はどんな人?  
とくべつ しょうじん ちゅうろう ひと

## 表紙

表紙——「心からの願い」ウォルター・レーン。複写は禁じられています。

裏表紙——現在のパーモント州シャロンの写真/ウェルデン・C・アンダーセン。歴史的写真につき、複写は禁じられています

## 「フレンド」表紙

絵/ラファエル・ロドリゲス・コアイリー・ロダルト, ウェンダ・タヒアタ, ルカー・ルアン・パンジャ・スト, マリエラ・エードリアナ・ファンデス, エリアス・リベラ・エスケデロ, ピクトリア・ゴメス, フリア・マテル, エミ・ヘンリカ・ヒルツネン, アンジェリカ・ヘルナンデス

# 大管長会 クリスマスメッセージ

年のうちのこの栄光に満ちた季節、わたしたちは神の御子イエス・キリストについて証を述べます。主はまさに、「道であり、真理であり、命」です(ヨハネ14:6)。わたしたちの模範であり、教師であり、贖い主です。

預言者ジョセフ・スミス<sup>あがな</sup>の生誕200年を祝う今年、わたしたちは、御父と御子イエス・キリストを証するという比類ない役割を果たした、偉大な預言者ジョセフに心から感謝をささげます。ジョセフは大胆にこう宣言しました。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。」(教義と聖約76:22-24)

神がその愛される御子をわたしたちに賜ったことを感謝します。主が生きておいでになり、今日も主の民を導いておられるという証を付け加えます。このクリスマスの時期に、そしてこれから迎える新しい一年を通じて、主の平安が皆さんと皆さんの愛する人々とともにありますように。■



「カートランド神殿に御姿を現された主」デル・パーソン画

# ジョセフ・スミス・ジュニア



## 神の預言者，偉大な僕<sup>しもべ</sup>



大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

**あ**る日、知人がこう言いました。「あなたの教会はすばらしいですね。ジョセフ・スミスのことを除けば、全部受け入れられると思います。」それに対してわたしは答えました。「それは矛盾していますよ。啓示を受け入れるなら、その啓示を受けた人も受け入れるのが当然です。」

この教会とその働きを称賛しながら、主の僕として教会のすべての組織や教え、原則の基礎を築いたジョセフ・スミスをさげすむ人がいることを、わたしは常々不思議に思ってきました。それは、一方で木の根を切るようなことをしながら、もう一方で、その木から実を摘み取ろうとしているようなものです。

末日聖徒が従う健康の律法は、<sup>がん</sup>癌や心臓病の研究の盛んな現代に広く称賛されています。そもそもこの律法は、1833年に、主から「知恵の言葉」としてジョセフ・スミスに下された啓示です(教義と聖約89：1参照)。それはどう考えてみても、当時の栄養学の文献を基としたものとも、それを言い出した人間がひねり出したものとも思えません。現在、医学的な研究という観点から見ても、それに従う数多くの人を堪

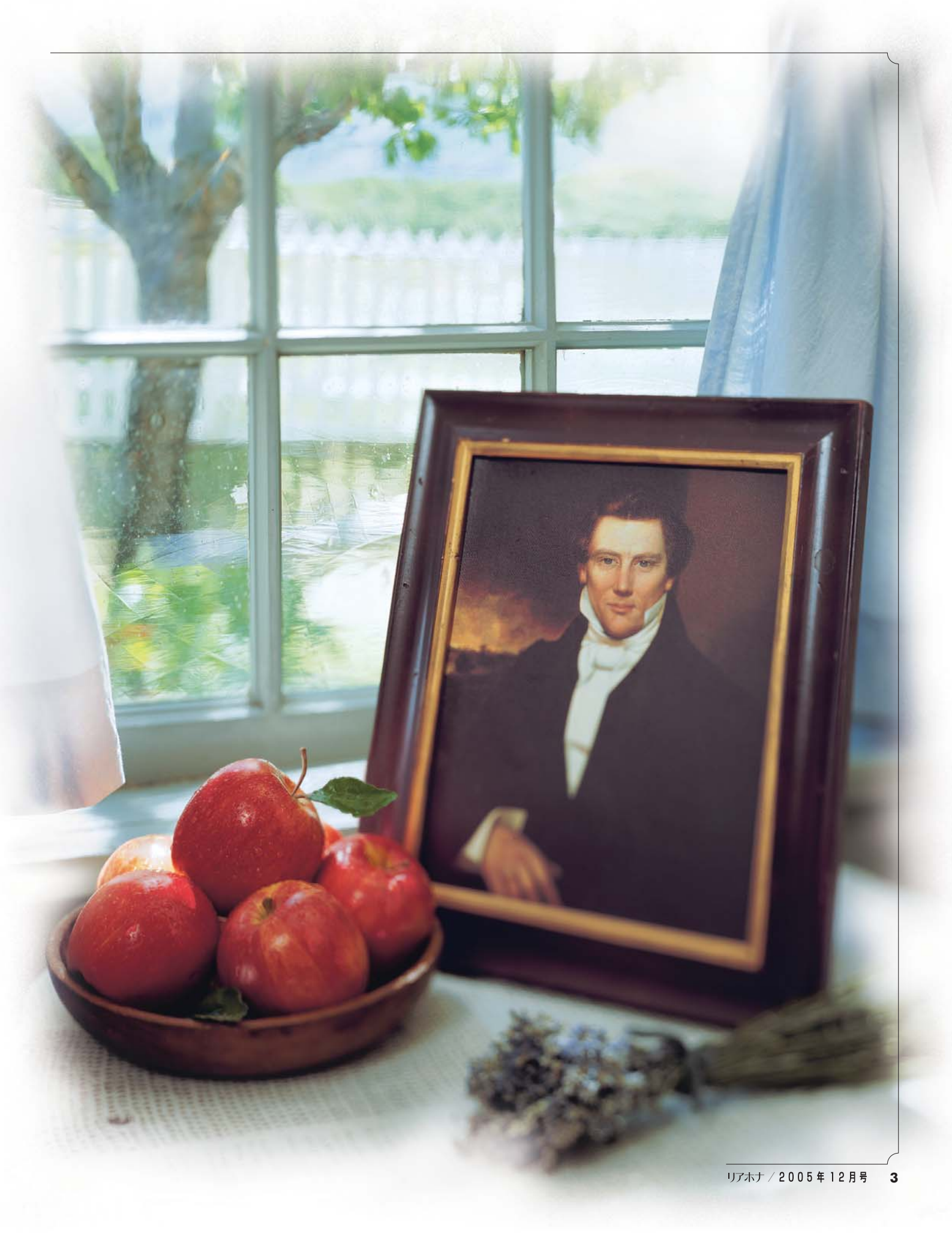
え難い苦痛や時期尚早の死から救っているこの知恵の言葉はまさに奇跡です。

近代において、系図探求は趣味として人気を博しています。全世界の無数の人の視線が、末日聖徒の宝蔵と呼ばれる家族歴史データに注がれています。しかし、教会のこの大プログラムは趣味を目的に始まったものではありません。預言者ジョセフ・スミスの教えの延長なのです。預言者は、先祖なしにわたしたちは救われまいと言いました。彼らは、福音の知識を持たず、そのために福音の求めるところにこたえることも、その機会にあずかることもできなかったのです(教義と聖約128：9, 15参照)。

この教会のすばらしい組織は、啓示に導かれてジョセフ・スミスが築いたものであり、預言者ジョセフの述べた啓示を研究せずには変更も改変もできません。

また、一部には近年の発足と見られがちな福祉プログラムも、教会初期にジョセフ・スミスが宣言した原則に忠実にのっとりて作られ、運営されています。それは家庭の夕べのプログラムについても同じです。家庭の夕べは、子供たちを「光と真理の中で育てる」という両親の責任に関する初期の啓示に従ったものにするにすぎないのです(教義と聖約93：40)。

啓示そのものを  
受け入れながら、  
啓示者である  
預言者ジョセフ・スミス  
を受け入れない人は、  
一方で木の根を切る  
ようなことをしながら、  
もう一方では、  
その木から  
実を摘み取ろうとしている  
ようなものです。





## 預言者をほめたたえる

あるとき、飛行機の中で隣り合わせた青年と話したことがあります。いろいろと話が出て、宗教の話題になりました。この男性は末日聖徒について過去にかなり本を読んだということでした。そしてこの教会に多くの称賛すべき事柄があることを理解していましたが、教会の起こりにまつわる話や特にジョセフ・スミスについては、強い偏見を持っていました。彼は別の宗教団体の熱心な信者で、末日聖徒についてどこで知識を得たのかと尋ねると、自分の教会の出版物で読んだということでした。勤め先を尋ねると、誇らしげに国際的なコンピューター会社の営業マンだと答えました。そこでわたしは、競合他社の営業マンから自社の製品を顧客に説明してもらうのはどんなものかと尋ねました。すると男性はほほえみながら、「いやあ、おっしゃりたいことは分かりました」と言いました。

わたしはかばんから教義と聖約を出して、主がジョセフ・スミスを通して語られた言葉を読んで聞かせました。それは、その友人が高く評価していた習慣が、そもそも彼の敬遠している人物を通じてもたらされたことを述べた箇所でした。別れる前に、この男性はわたしが送る本を読むと約束してくれました。わたしは、よく祈って読むならば、興味のある教えや習慣だけでなく、それらを世に伝えた人物についても真実かどうか分かるかと約束しました。そしてジョセフ・スミスの預言者としての召しに対するわたしの確信を証しました。200年前の12月にバーモントの田舎町で質素な境遇に生まれた赤ん坊は、偉大な指導者となり、神が地上の子供たちのために用意された計画を成就するよう予任されていたのです。

わたしたちは預言者ジョセフ・スミスを礼拝しません。わ

わたしたちは預言者ジョセフを礼拝しません。  
しかしわたしたちは、全能者の手に使われる者として、  
神権とともに、  
いにしえの時代における神の福音の真理を  
地上に回復したジョセフ・スミス  
を称賛し、敬います。



たしたちが礼拝するのは永遠の父なる神と、復活された主イエス・キリストです。しかしわたしたちは、全能者の手に使われる者として、いにしえの時代における神の福音の真理を地上に回復し、神の教会の業を果たし人々を祝福するために、神の権能すなわち神権を回復したジョセフ・スミスを感謝し、称賛し、敬います。

ジョセフの生涯は奇跡の物語です。彼は貧困の中に生まれ、逆境の中で育ちました。ここかしこに追い立てられ、虚偽の非難を受け、不当に投獄され、そして38歳で殺害されました。しかしジョセフ・スミスは死去するまでの20年という短い間に、ほかの人が一生かかっても成し遂げられないことを果たしたのです。ジョセフが出版したモルモン書は多くの言語で翻訳され、無数の人々に神の言葉として受け入れられています。また、ジョセフが受けた啓示や著した書物も、この無数の人々の聖典となっています。それらの書物のページ数を合計すると、ほぼ新約聖書の2倍に相当し、それがただ一人の人によってわずか数年で世に出されたのです。

またこれと同時期にジョセフ・スミスは教会を設立し、その教会は175年にわたり攻撃と難関を乗り越えてきました。1830年に300人であった教会員は、現在では世界中で1,200万人います。このすばらしい組織を、ジョセフ・スミスが生きていた時代の産物と言いつける懐疑論者もいます。しかしはっきりと申し上げますが、この組織は現代同様、過去においても、特殊で無類の優れた組織でした。この教会は当時の産物ではなく、神からの啓示によって設立されたのです。

## 不死不滅と永遠

人が永続する存在であるというジョセフの受けた啓示は、前世の存在から墓のかなたの永遠にまで及ぶものでした。ジョセフは、救いはすべての人に及び、全人類は救い主の贖罪によって復活の恵みにあずかると教えました。しかし、この賜物に勝るのは、福音の原則に従うなら、この世における幸福と来世での昇栄が約束されるということです。

ジョセフ・スミスが教えた福音も、その時代や将来の人々



**ジョセフは**  
**モルモン書を**  
**翻訳し、**

**出版しました。**

**この本は**  
**多くの言語で翻訳され、**  
**無数の人々に**  
**神の言葉として**  
**受け入れられています。**

だけにあてたものではありませんでした。天の神の教えを受けたジョセフ・スミスの思いは、あらゆる時代のあらゆる人間に向けられていました。生者と死者の両方に、福音の儀式にあずかる機会が必要なのです。

いにしへのペテロはこう宣言しました。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。」(1ペテロ4:6) 死者に関して言えば、もし彼らが肉において人間として裁きを受けるのであれば、身代わりの業が行われなければなりません。そしてこれが成し遂げられるには、死者を見いださなければならず、末日聖徒イエス・キリスト教会の大規模な家族歴史プログラムが必要になってきます。家族歴史は趣味という目的を満足させるためではなく、神の永遠の目的を達するために設けられたのです。

ジョセフ・スミスは死に至るまでの20年間に、福音を世界中の国々に伝えるための業を開始しました。彼の思い切っ

た決断は、驚くべきものです。教会の揺籃期に、しかも厳しい逆境の中で、召しを受けた人々は家や家族を後に残し、海を渡り、イエス・キリストの福音の回復を宣言するために出かけて行ったのです。ジョセフ・スミスの思いとビジョン

は全世界を視野に入れたものでした。

毎年2回行われる総大会の時期に、会員たちは、南北中央アメリカ、イギリス諸島、アフリカ、ヨーロッパ諸国、太平洋諸島、また歴史豊かなアジア諸国に集います。これらの人々は、神の預言者ジョセフ・スミスが抱いていたビジョンの結実です。ジョセフ・スミスはまさに、今の時代と、さらにこれから主の業が全地に広がるすばらしい時代を見た偉大な聖見者でした。





1 ▶



**12月14日**—預言者イザヤは救い主の神聖な使命と降誕について預言し、証あかししました。イザヤ7：14-15；9：6-7：53章。

2 ▶

**12月15日**—ニーファイは、救い主の降誕と主が十字架におかかりになる前後になされた教導の業について、示現の中で見ました。ニーファイの記録を読みましよう。1ニーファイ11：9-33；12：4-8。



3 ▶

**12月16日**—ベニヤミン王は救い主の来臨について証しました。モーサヤ3：1-12, 20-21。



4 ▼

**12月17日**—レーマン人の預言者サムエルは邪悪なニーファイ人に対して、キリストの降誕と死について預言しました。ヒラマン14章。



12

**12月25日**—「生けるキリスト—使徒たちの証」を読み、深く考えましよう。www.lds.org(英文),『若人の強さのために』,または『リアホナ』2000年4月号に掲載されています。あなた自身の証を日記に記しましよう。

11 ▲

**12月24日**—キリスト降誕の前夜、預言者ニーファイは悪人たちによって殺されようとしている自分の民のために祈りました。その祈りにこたえられた主の言葉と、預言者サムエルの預言が成就じょうじゆしたことについて読みましよう。3ニーファイ1：9-22。

アイデアリスト

聖文を読んで過ごす、  
クリスマス

12 日間

救い主についてさらに学ぶことにより、今年のクリスマス<sup>クリスマス</sup>を特別なものにする<sup>特別なもの</sup>ことができます。以下に、助けとなる聖句を幾つか選<sup>幾つか</sup>び、提示してあります。クリスマスを迎えるまで毎日、その日の項目を学びましよう。

5 ▼

**12月18日**—救い主についての預言者ジョセフ・スミスの証を読みましよう。教義と聖約76：19-24, 40-42。



6 ▼

**12月19日**—預言者アルマは救い主と救い主の贖あがないの力について証しました。アルマ7：7-13。

10 ▲

**12月23日**—救い主の降誕について記されたマタイの記録を読みましよう。マタイ1：18-25；2章。



◀ 9

**12月22日**—救い主のバプテスマと教導の業について、マルコの記録を読みましよう。マルコ1章-2：13。



◀ 8

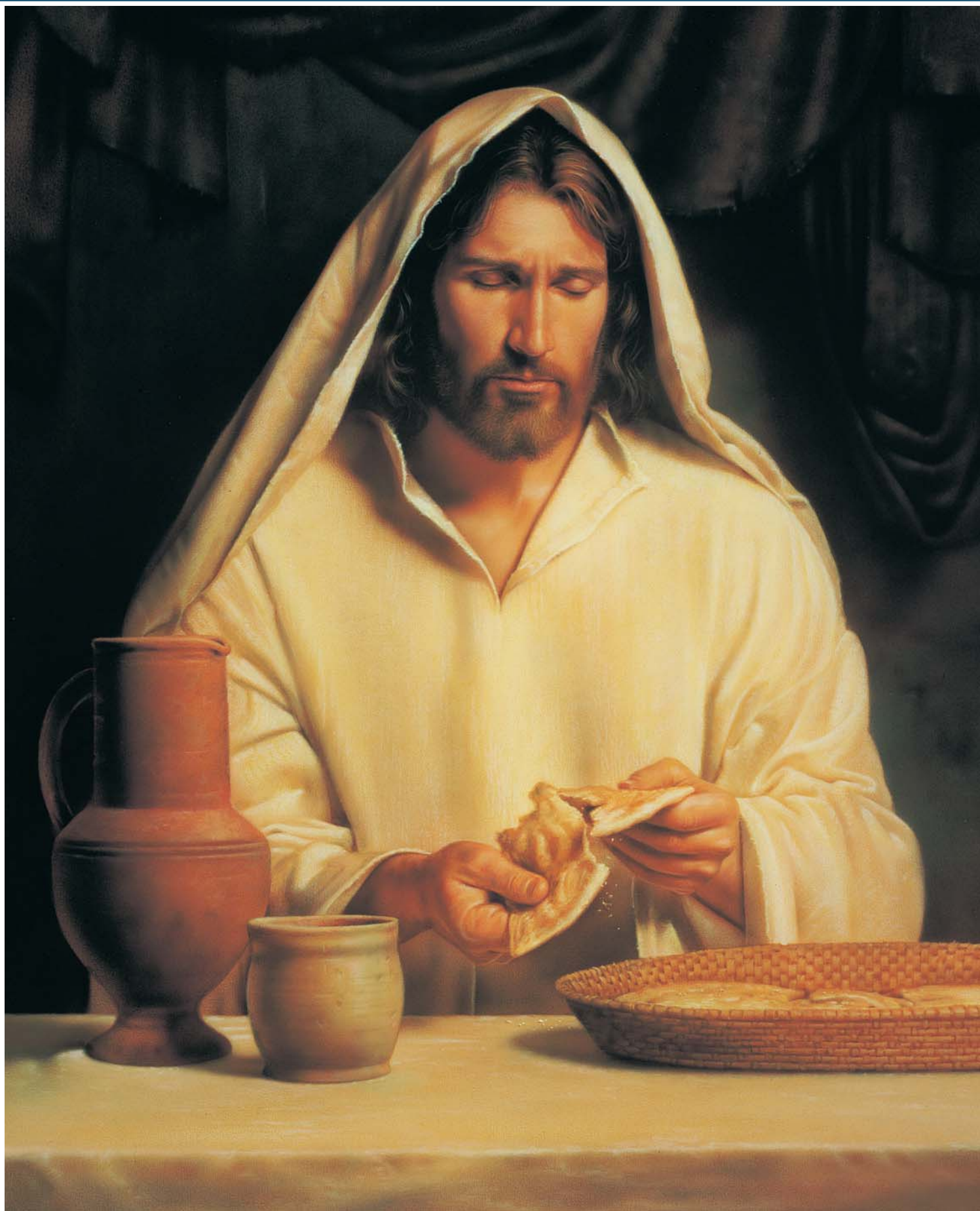
**12月21日**—救い主の降誕と子供時代について書かれたルカの記録を読みましよう。ルカ2章。



◀ 7

**12月20日**—マリヤとエリサベツの経験について読みましよう。ルカ1章。





# いつも

## 救い主を覚える

十二使徒定員会  
ヘンリー・B・アイリング

**毎**回の聖餐式において、「いつも」という言葉が聖約、すなわち皆さんが神と交わす神聖な約束の中で使われています。権能を受けた神の僕が読み、皆さんが聞くのは次の言葉です。「進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、いつも御子の御霊を受けられるように、このパンを祝福し、聖めてください。」(教義と聖約20:77。強調付加)

皆さんは「いつも御子を覚え[る]」ことを約束します。俗事に心を砕かなければならないこの世での生活について考えるとき、なぜ主が「いつも」という言葉が使われたのか、いぶかしく思うのは、きっとわたしだけではないでしょう。いつも同じことを意識して考えていることの難しさは、だれしも経験から明らかです。

主がどのような意図の下に、いつも主を覚えるという聖約をお与えになったのか、完全に理解できるほどの知恵はわたしにはありません。でも、一つだけは理解しています。それは、わたしたちに影響を与える強力な勢力と、人間が持っている性質について、主がすべて御存じだということです。

### 敵対する勢力

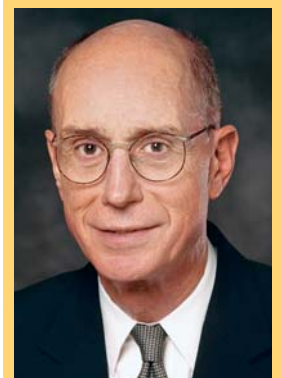
二つの敵対する大きな力がわたしたちの周りでしごきを削っていることは明らかです。一つは義の勢力です。例えば神殿が、数年前で

は考えられなかったようなペースで建てられています。また大勢の宣教師が新しい地に召されています。宣教師の数も新しい伝道地もどんどん増えるので、具体的な数や場所はなるべく言わないようにしています。古い情報を伝えることになりかねないからです。

いつもそうですが、敵対する勢力も存在します。罪の勢力が勢いを増していることは明白です。ここで例を挙げることはしません。メディアや周囲の人々の生活を見れば、その悲劇を嫌というほど見ることができます。過去の出来事を振り返っただけでも、人を墮落と苦痛へ陥れる罪の勢力がますます容認され、果ては奨励されるようにさえなっていることに気づくでしょう。

主はそうした敵対勢力が増すことを完璧に予見されるだけでなく、この世での生活がどのようなものであるかをも理解しておられます。主はわたしたちに世の煩いがあることを御存じです。額に汗してパンを食べることも、地上に子供たちをもたらすという戒めから、煩いや心配、そして悲しみさえ経験することも知っておられます。さらに、わたしたちが直面する試練や、試練に対処する人間の能力に盛衰があることも御存じです。

主はわたしたちが過ちを犯しやすいことも御存じです。過ちを犯すのは、働きかけてくる力を過小評価し、人間的な力に頼りすぎるからです。そこで主は、「いつも主を覚え[る]」という聖約を授け、「常に……祈[る]」ように警告されました(3ニーファイ18:18)。わたしたちにとって唯一守ってくださる御方である主に



**わ**たしたちは、  
いつも  
主を覚え、  
主の戒めを守れば、  
主の御霊を  
いつも受けられる  
と約束されています。

頼るためです。すべきことを理解するのは難しくはありません。いつも主を覚え、常に祈るうえで困難なのは、さらに熱心に努力できるよう自らを駆り立てることなのです。危険なのは、後回しにすることや、周りに流されることです。

### 霊的に前進する

わたしのメッセージは、嘆願、警告、そして約束です。わたしは皆さんに嘆願します。霊的な成長を促してくれる次のことをどうぞ行ってください。簡単なことです。

まず、主を覚えることです。人は、理解し、愛していることだけを覚えておくことができるものです。救い主はわたしたちに聖文を与えてくださいました。そのために預言者たちが計り知れない犠牲を払っています。主を知ることができるように、そうしなさい。聖文を読み、理解することにこれまで以上に集中してください。今決意してください。これまでの人生で、最も多く、最も効果的に読むと。

数年前の12月に、聖文を心にしみ込ませようとさらに努力するとどんな力が得られるかを再発見しました。きっかけは、ある集会で隣に座った人の聖典が目に入ったことでした。彼の聖典にはわたしの聖典と同じように何種類もの印が付いていました。でも少し違っていました。ページの端に、それらの印と同じ色の付せんが付いていて、テーマ別に必要な聖句がすべて研究できるようになっていたのです。

わたしはその日のうちに、あまり高価でない聖典を一式購入しました。しかし、新たにどのような観点で聖文を研究すべきか、そのテーマを決めるために何日も費やし、何度も祈りました。わたしはイエス・キリストの証人という自分自身の召しについて教えてくれるテーマを選びました。最初のテーマはイエス・キリストが神の御子であられるという証あかしにしました。次に、主がよみがえられたこと、第3に、主がこの教会かしらの頭であられるということについての証です。

皆さんに新しい聖典や色つきの付せんや色鉛筆を購入するように勧めているわけではありません。わたしが選んだものと同じテーマを選ぶように勧めるつもりもありません。しかし、わたしは皆さんに嘆願します。何らかの方法で再び聖文に立ち返り、思いと心を開き、聖文から教えを受けてください。

多くの聖句は慣れ親しんだものです。しかしほんの数週間のうちに、救い主へのわたしの理解と思いはさらに深まりました。

目的をもって聖句を読み始めたのです。クリスマスだったからかもしれません。主をいつも覚えていたかったからかもしれません。しかし、気がついてみると、わたしは主の降誕の記述に引き込まれていました。わたしはモルモン書に記された、主が預言者ニーファイに語られた言葉を改めて読みました。よく知られた聖句ですが、新たな感動がありました。

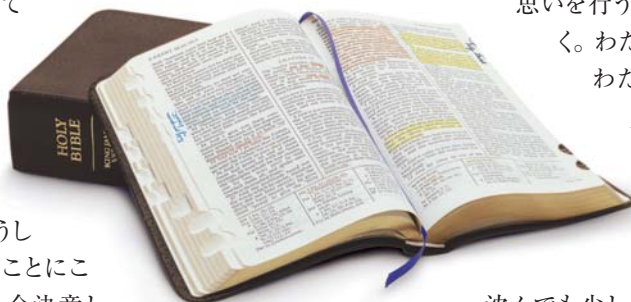
『見よ、わたしは、世の初めから人の子らに知らせてきたすべてのことを成就するため、また父と子の両方の思いを行うために、わたし自身の民のもとへ行く。わたし自身のゆえに父の御心みこころを行い、わたしの肉のゆえに子の思いを行う。見よ、時は近い。今夜、しるしが示されるであろう。』

さて、ニーファイに下された御言葉は告げられたとおりに成就し、見よ、太陽が沈んでも少しも暗くならなかった。こうして夜になっても暗くならなかったので、民は驚いた。』(3ニーファイ1:14-15)

それから、わたしはそれまでにない経験をしました。レーマン人サムエルの預言が成就している光景が心の目に映り、また感覚として得ることができたのです。日が沈んでも暗くならないというあの預言です(ヒラマン14:3-4参照)。まるで、主が降誕されたその時に、約束の地のどこかで、民と一緒にいたかのように、日が沈んでも暗くならないあの光景を、わたしは見ました。それはまるで、復活された主が再臨し、オリブ山の頂に栄光をまっとしてお立ちになる光景を見ているかのようにでした。約束のメシヤがその翼に癒しを携えて来られるとき、暗闇くらやみは消え去ります。わたしは自分がその癒しをどれほど必要としているか知っています。ですから、その光を思った瞬間、心は喜びと主への愛であふれんばかりになりました。今後、新しい一日の夜明けを迎えて、光が暗闇を払いのけるのを見る度に、心を主への愛で満たしてくれたあの光景を、わたしは必ず思い出すことでしょう。

### 警告

わたしは嘆願するだけでなく、警告もしなければなりません。皆さんには自分で選択する権利と義務があります。聖文を研究することも、しないでもいいこともできます。聖霊に伴侶



となっただけのように十分努力し、<sup>めいそう</sup>瞑想し、主の戒めを守ることを、皆さんは選択することができます。そのような選択をすれば、救い主についての理解がますます深まり、心が主への愛で満たされるでしょう。逆に、努力を後回しにすることもできます。これまでの努力で十分だと考え、周りに流されて生活することもできます。

わたしの警告は単純な因果関係に関することです。イエス・キリストは世の光であり命です。わたしたちが主の方に向かわなければ、主から離れて行くこととなります。

「主なるわたしは、ほんのわずかでも罪を見過ごしにすることはないからである。

それでも、悔い改めて主の戒めを守る者は<sup>ゆる</sup>赦されるであろう。

また、悔い改めない者は、すでに受けている光さえ取り去られる。わたしの御霊はいつでも人を励ますわけではないからである、と万軍の主は言う。」(教義と聖約1:31-33)

わたしたちは、いつも主を覚え、主の戒めを守れば、主の御霊をいつも受けられると約束されています。しかし、足もとを照らすその光は、後回しや周りに流される生活によって消えていくのです。

## 約束

確かな約束があります。第1に、いつも救い主に心に向け、主をいつも覚え、祈りをもって天の御父に近づくならば、皆さんは霊のよいを身にまとうことができます。人の力では成功はとうていおぼつかないことを、皆さんは理解しているので、高ぶることがなくなります。また、弱くて、経験不足で、ふさわしくない自分には、神から召されて、神の子供たちの救いに貢献することなどできないという否定的な思いに支配されることがなくなります。モロナイが記した確信が、心にわき上がってくるのです。「キリストは、まことにわたしたちの先祖に、『信仰があれば、あなたがたは、わたしの心にかなうすべてのことを行うことができる』と言われた。」(モロナイ10:23)



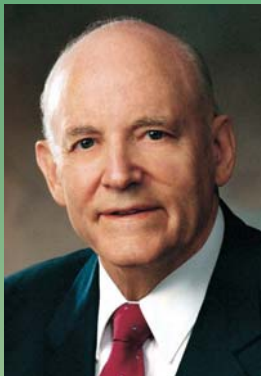
もう一つ確かな約束があります。それは、主をいつも覚えるという聖約を皆さんが守るか守らないかにかかわらず、主はいつも皆さんを覚えておられるということです。ベツレヘムでお生まれになったイエス・キリストは過去から現在にわたって、御父の独り子であり、神の小羊であられることを証します。主はこの世が造られる前に、わたしと皆さんの救い主、わたしたちがこれから出会うすべての人の救い主とされました。わたしは主が復活されたことを証します。主の贖い<sup>あがな</sup>のおかげで、信仰をもって律法に従い、福音の儀式を受け入れることにより洗い清められることを証します。

新たな目的を持ち、熱心に祈りながら聖文を研究するならば、聖霊が皆さんの心に触れてくださることを約束します。皆さんはそこから、神が実在し、皆さんの祈りにこたえてくださること、イエスが生けるキリストであり、皆さんを愛しておられるという確信を得ることができるのです。そして皆さんは、主への愛が増していくのを感じることでしょ。■

この記事は、1999年1月3日にブリガム・ヤング大学で行われた教会教育システムファイヤサイドの説教を基に書かれました。

**皆**さんに  
新しい聖典や  
色つきの  
付せんや色鉛筆を  
購入するように  
勧めているのでは  
ありません。  
わたしが選んだものと  
同じテーマを  
選ぶように勧める  
つもりもありません。  
しかし、わたしは  
皆さんに嘆願します。  
何らかの方法で  
再び聖文に立ち返り、  
思いと心を開き、  
聖文から  
教えを受けてください。

# ほんとうの クリスマス



ハワード・W・ハンターは、  
1907年11月14日に  
アイダホ州でネリー・  
マリー・ラスマッセンと  
ジョン・ウィリアム・  
ハンターの間にもうまれた。  
1959年10月15日に  
使徒に聖任され、  
1994年6月5日に  
大管長に召された。  
1995年3月3日に  
他界した。

キリストを感動と躍動と  
活力の源として  
生活の中に迎える人に  
ほんとうのクリスマスは  
やって来ます。

第14代大管長  
ハワード・W・ハンター  
(1907-1995年)

**ク** リスマスは忙しい季節です。最後の準備に追われて、通りや店は人であふれます。道路は車で混雑し、空港は人でごった返します。キリスト教徒はこぞって音楽や照明、きらびやかな装飾を凝らして生活に彩を添えます。

ある作家はこのように言いました。

「人々の心にこれほど深く入り込み、高尚な思いへと向かわせる休日ほかにありません。クリスマスに結びついた思い、記憶、望み、習慣は、古代の文化と国民の伝統に深いつながりがあり、子供から老人まで一人一人が持っているものです。わたしたちの性質の、宗教、社会、愛国的な面にまで及んでいます。いつまでも新鮮であることを表すヒイラギとヤドリギ、愛する人に贈り物をする習慣、クリスマスツリー、サンタクロースの言い伝え、これらすべてが重なり合って、クリスマスは最も待ち焦が

れる世界的な行事であり、あらゆる意味で、人々の知る最も大切な休日となっているのです。」「[クラレンス・ベアード “The Spirit of Christmas” *Improvement Era*, 1919年12月号, 154]

## クリスマスの起源

クリスマスの季節は伝統にあふれており、その起源は歴史のはるかかなたにまでさかのぼります。この休日はキリスト教が出現するずっと以前の異教徒の礼拝に始まりました。古代アーリア人はミトラの神を崇拝していました。この崇拝は次第にインドやペルシャに広がりました。最初、ミトラは明るい空に輝く光の神でした。しかし、後のローマ時代になると太陽の神すなわち太陽神——「ソル・インウィクタス・ミトラ」として崇拝されるようになりました。

紀元前1世紀に、ポンペイウスは小アジアのギリキアの南部沿岸地方を次々と征服し、戦いで捕らえた多くの人々をローマへ連れて行きました。これによってミトラの偶像礼拝がローマに持ち込まれたのです。捕虜が自分たちの宗教をローマ人の兵士に広めたからです。この偶像礼拝は特にローマ軍の兵士の間で盛んになりました。今日、ローマ帝国の巨大な都市の廃墟に、ミトラの神殿を見つけることができます。ミトラ崇拝はローマ社会で繁栄し、キリスト教と並んで人々の信仰を二分するまでになりました。

太陽神を崇拝する人々は、1年で最も昼の短



い日である冬至の直後に祭典を行っていました。太陽が南半球へ移る瞬間に停滞する時期です。太陽がこの最下点から上昇していく様をミトラの再生と考えたのです。そしてローマ人は毎年12月25日にミトラの誕生日を祝いました。この祝日には祭典や祝宴を開き、友人に贈り物をし、住居を常緑樹で装飾して、お祭り騒ぎを展開したのです。

キリスト教は最大のライバルであるミトラ崇拝を次第に凌駕していきました。そしてミトラの誕生を祝っていた祭りの日

を、キリストの降誕を記念する日としたのです。ローマ文化に深く根ざしていた太陽崇拝は、キリスト教徒の間で最大の祭典の一つに置き換えられました。こうしてクリスマスは感謝と喜びの日、人々に活力と善意をもたらす日として今日まで伝えられてきました。この世的な由来と俗世的な意味を持っているとはいえ、クリスマスは神聖な意味があります。古代キリスト教徒の祭典は時代を超えて生き続けてきたのです。

## クリスマスが現代に持つ意味

現代の人々はクリスマスをどのように考えているでしょうか。サンタクロースの言い伝え、クリスマスツリー、輝く装飾、ヤドリギ、贈り物、これらは皆、わたしたちが祝う日の精神を表しています。けれどもクリスマスの真の精神ははるかに深遠なものです。それは救い主の生涯、主が教えられた原則、主の贖いの犠牲の中に見いだすことができます。これはわたしたちの大いなる受け継ぎとなっています。

大管長会はかつて次のような大切な声明を発表しました。

「末日聖徒にとって、クリスマスはいにしへの時代をしのび、預言に思いをはせる季節です。二つの偉大で厳粛な出来事、すなわち世界中の人々が、人類の歴史で最もすばらしく偉大であると考えている出来事を思い出す日です。これらの出来事はこの惑星が創造される以前から、ここで起きると[あらかじめ定められて]いました。一つは時の中間に救い主が降臨して、世の罪のために死を受けられることでした。もう一つは、復活し栄光を受けられた贖い主が王の王として地球を治めるために再臨されることです。」  
〔“What Christmas Suggests to a Latter-day Saint” *Millennial Star*, 1908年1月2日付, 1〕

パウロはガラテヤ人にあてた短い手紙の中で、彼らが明らかに不信心であり、キリストについての教を捨ててしまっていることについて深く心を痛めていることを示しました。こう記しています。「わたしがあなたがたの所にいる時だけでなく、いつも、良いことについて熱心に慕われるのは、良いことである。ああ、わたしの幼な子たちよ。あなたがたの内にキリストの形ができるまでは、わたしは、またもや、あなたがたのために産みの苦しみをする。」(ガラテヤ4:18-19) 言葉を換えると、彼らの内にキリストが形作られるまで、パウロは苦しみ、また心配すると言ったのです。パウロが手紙の中で繰り返し使っている「キリストにあって」という言葉を言い換えたものです。

キリストは人々の生活の中に生まれ、その人の生活の一部となることがおできになります。それが実際に起きるときに、人は「キリストにあって」、人の中にキリストの形ができるのです。そのためには、キリストを生活の中に迎えて、キリストの影響を受けながら生活する必要があります。キリストは単なる歴史上の真理や事実にとどまる御方ではありません。あらゆる地に住む、あらゆる時代の人々にとっての救い主で

す。キリストのようになる努力をするときに、わたしたちの内  
にキリストの形ができます。わたしたちが扉を開くならば、キ  
リストは入って来られます。キリストに助言を求めるなら、与  
えてくださいます。わたしたちの内にキリストの形ができる  
には、キリストとその贖いを信じなければなりません。キリス  
トに信仰を持ち、戒めを守ることは束縛ではありません。  
そうすることで人は自由になるのです。この平和の君は心の  
平安を与えようと待っておられます。わたしたち一人一人が  
平和をもたらす手段となるためです。

キリストを感動と躍動と活力の源として生活  
の中に迎える人にほんとうのクリスマスはやっ  
て来ます。クリスマスの真の精神は主の生涯と  
使命の中に見いだすことができます。クリスマ  
スの真の精神を定義した作家の言葉を続けて  
引用しましょう。

「それは人のために犠牲を払い、奉仕を行い、  
全世界の人々を愛するよう望むことです。してあ  
げたことを忘れて、してもらったことだけを記憶  
にとどめることです。あなたが世に課している負  
債を忘れて、目の前にある義務を果たし、隣人  
に善を行い、支援すること……だけを考えるこ  
とです。隣人があなたと同じように安らかであ  
るかどうかが確かめること、彼らの表情から心にあ  
る思いを推し量ることです。世を嘆き悲しむの  
をやめて、幸福の種をまく場所を探し、他人から  
見られていなくても自分の務めを果たすことと  
す。」〔*Improvement Era*, 1919年12月号, 155〕

ジェームズ・ウォーリングフォードはクリスマ  
スについてこのような詩を詠みました。

クリスマスはその日や季節ではなく、心と思いの有様を指す  
もし自分のように隣人を愛するなら  
もし富んでいるときに心がへりくだり、貧しいときに深い  
思いやりを示すなら  
もし高ぶることのない愛を持ち、寛容であり、情け深くあ  
るなら  
兄弟からパンを求められたときに、すべてを差し出すなら  
もし朝ごとに機会が訪れ、わずかでも成し遂げてその日を  
終えるなら……  
毎日がキリストの日であり、クリスマスはいつでも目の前  
にあるのだ  
〔チャールズ・L・ウォリス編, *Words of Life* (1966年), 33〕

**キ**リストのように  
なる努力を  
するときに、  
わたしたちの内に  
キリストの形ができます。  
わたしたちが  
扉を開くならば、  
キリストは  
入って来られます。  
キリストに  
助言を求めるなら、  
与えてくださいます。



ある賢人はこう語りました。

「クリスマスの物語について最も驚きを覚えるのはその適合性にある。それはあらゆる時代に似つかわしく、あらゆる生活環境に適合する。それは古くから語り継がれている単なるほほえましい物語ではなく、永遠に新鮮さを失うことのない物語である。それはあらゆる荒れ野で呼ばわる声である。羊飼いが星の光に導かれてベツレヘムのかいばおけを訪れた昔と同じように、今の時代にも意味を持ち続けている。」〔ジョセフ・R・シズー、*Words of Life*, 33〕

クリスマスは子供たちのためにあると言われてきました。けれども、幼い空想の時代が過ぎ去って、成熟した理解力を持つ年齢を迎えるとき、「受けるよりは与える方が、さいわいである」(使徒20:35)と言われた救い主の素朴な教えは実際的な意味を持つようになります。異教徒の休日が、人々の生活にキリストがお生まれになることを祝うキリスト教徒の祝日へと進化してきたということは、イエス・キリストの福音によって感化された人が、ある意味で成熟したことを表すのです。

### クリスマスの真の精神を見いだす

クリスマスの真の精神を見いだし、そのすばらしさを味わいたいと思うなら、次のことを実行してみるよう提案します。今年、クリスマスの慌しい時期を迎えるときに、神に心を向ける時間を見つけてください。できれば静かな時間に、静かな場所へ行ってひざまずき、一人であるいは愛する人と一緒に、与えられた祝福に感謝をささげます。それから、神に仕え、神の戒めを守るよう熱心に努力するとき、神の御霊を受けられるようお願いめます。神は皆さんの手を取って導かれ、その約束は果たされることでしょう。

神は生きておられます。神の御子、世の救い主の神性を証あかしします。生ける神の預言者が地上に置かれている祝福に感謝します。■

この話は、1972年12月5日にブリガム・ヤング大学で開かれたディボーショナルの説教を基に書かれました。現代の表記法に合わせて編集されています。



# ある家族の じゅうぶん 什分の一 あかし についての証

ドン・L・サール

教会機関誌

**主**は什分の一をささげる人々に次のように告げられました。「わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐ……。」(マラキ3:10) 主のこの言葉の裏には、どのような意図があったのでしょうか。エルサルバドルのサンサルバドルに住むある家族は、祝福を受けるに至った経験について語っています。

ホセ・アントニオ・サラサルと妻のノエミは1975年に教会に入ってから、子供たちに訓戒と模範によって福音を教えるために、できる限りの努力をしてきました。娘のセセリア・ノエミは成長して伝道に出て、帰還宣教師のルイス・リカルド・アルビズと結婚しました。ルイスも子供のころから福音に従うことを家庭で学び、現在はサンサルバドルで教会教育システムの管理運営コーディネーターをしています。ルイスとセセリアは、17歳のシルビア・ノエミと10歳のルイス・リカルドという二人の子供に恵まれています。

ホセは毎日受けている祝福に感謝し、それは忠実に什分の一をささげている結果だと信じています。「毎日のパンを与えられています。足りないものは何もありません。」健康にも感謝しています。また妻と一緒にカリフォルニア州ロサンゼルスに住んでいたころに神殿で奉仕をする機会があり、その祝福についても語ります。「これ以上、一体何を神様に望めるでしょうか。」

妻のノエミによれば、何一つ足りないものはなかっただけでなく、人を助ける手段や機会さえ与えられてきたということです。また什分の一の律法やそのほかの戒めに従うことによって、霊的に成長する機会が得られると信じています。「いつも教会で責任を受けてきたことが祝福です。」彼女はそう述べています。

娘婿のルイス・アルビズは、自分の母親が調理済

みの食べ物を売る小さな店を開いていたのを覚えています。母親は教会に入った後は日曜日に仕事をするのをやめました。けれども主からの祝福があり、収入が減ることはありませんでした。ルイスとセセリアが結婚したときには、ルイスの給料はとて少ないものでした。しかしステーキ副会長に召されて間もなく収入が3倍に増え、セセリアは仕事を辞めて家にいられるようになったのです。

天の窓を開くという主の約束について、たいいていの人が物質的な祝福を考えているとセセリアは指摘します。「ほんとうに必要なのは物質的な祝福ではなく霊的な祝福です。」彼女の家族の場合は、「子供たちが従順であることです。」

什分の一をささげてきた結果、家族にはいつでも必要なものがあつたとルイス・リカルドは語ります。このことについて、従順の模範を示してくれた両親に感謝しているのです。

什分の一の律法やそのほかの戒めに従ってきたシルビアはこう語ります。「福音を学ぶ中で多くの祝福を受けてきました。証が強くなったと感じます。」さらに、従順についてこう語ります。「[従順を通して]イエス・キリストについて力強く証できるようになりました。従順という特質があれば、将来わたしが築く家庭を強めることができるでしょう。」■



# 10パーセントと 心のすべて

単にポケットから納めるのではなく、心の底から<sup>じゅうぶん</sup>什分の一をささげましょう。  
(教義と聖約64:34参照)



ある預言者の人生

# 揺籃の地

## バーモント州シャロン

バーモント州シャロンはイエス・キリストの福音の回復における揺籃の地と呼ぶのにふさわしい場所です。ジョセフ・スミス・ジュニアは1805年12月23日にそこで生まれました。ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスの5番目の子供であるジョセフ・ジュニアは、養いを受け、愛情を注がれ、「時満ちる神権時代」の預言者になるべく(エペソ1:10)、少しずつ成長していったのです。

ジョセフ・シニアとルーシーの先祖はともにニューイングランド出身です。二人は1796年から1816年にかけてバーモント州とニューハンプシャー州の中で何度か引っ越しています。その間、二人には11人中10人の子供が生まれました。

ニューハンプシャー州ウエストレバノンでは腸チフスが蔓延しました。当時7歳だったジョセフ・ジュニア(右端)の左足は、深刻な感染症に冒されてしまいます。2度の手術が失敗し、切断する以外に方法はないよ

うに思いましたが、ルーシーは医師たちにもう一度手術をしてほしいと食い下がりました。3度目の手術では鉗子で骨の一部を取り除きました。ジョセフは激しい苦痛に耐え、手術は成功しました。

農作物の不作が3年続いた後、スミス家族は1816年にニューヨーク州パルマイラに引っ越しました。バーモ

ント州シャロンには、スミス家が住んでいた名残がわずかながら今も残っています(例えば、家族で築いた石橋や〔挿入写真——右〕、当時建てた丸太小屋で使っていた炉床〔挿入写真——上〕など)。

預言者ジョセフ・スミスの生誕100年の日に、ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)は、訪問者センターとして使われる記念のコテージ(挿入写真——左)と、花崗岩の記念碑(背景)を奉獻しました。記念碑は38.5フィート(11.7メートル)で、1フィートが預言者の生きた1年を表しています。■



背景写真/ウェルデン・C・アンダーセン。「ジョセフ兄弟」の一部、デビッド・リンズレー画。左の挿入の写真/複写は禁じられています。上の挿入写真/ウェルデン・C・アンダーセン。「少年時代のジョセフ・スミス」セオドア・S・ゴーカー画



**ブ**リガム・ヤング大管長  
(1801 - 1877年)はこの  
ように述べました。「主

は〔ジョセフ・スミス〕のうえに、彼の父親のうえに、彼の父親の父親のうえに、そして……アダムにまでさかのぼる先祖に目を注いでこられました。主はこの家系を見守り、この家系の血統が始祖からこの人の誕生まで継承されるのを見守ってこられました。ジョセフはこの最後の神権時代を管理するよう永遠に予任されていたのです。』<sup>1</sup>

ジョセフ・スミスは先祖から、また生地であるニューイングランドの伝統から、勤労、神への献身、愛国心を含め、多くの事柄を学びました。この家系図から、ジョセフの先祖についてももう少し知ることができます。<sup>2</sup>

#### 注

1. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』106参照
2. 『時満ちる時代の教会歴史』15 - 27参照
3. ルーシー・マック・スミス, *History of Joseph Smith*, プレストン・ニブリー編 (1958年), 182
4. リチャード・ロイド・アンダーソン, *Joseph Smith's New England Heritage* (1971年), 112で引用
5. ジョン・ヘンリー・エバンズ, *Joseph Smith: An American Prophet* (1989年), 23 - 24参照。19 - 30も参照

#### 1 ロバート・スミス

ロバートは預言者ジョセフの5代前の先祖でした。ロバートは10代するとき、イギリスからアメリカへ渡り、1638年にボストンに着きました。

#### 2 メアリー・フレンチ

メアリーは預言者ジョセフの5代前の先祖であり、10人の子供の母親でした。メアリーと夫は結婚生活のほとんどをマサチューセッツ州トプスフィールドで過ごしました。

#### 3 サミュエル・スミス・シニア

サミュエルは1666年にロバートとメアリーののもとに生まれました。トプスフィールドの町と郡の記録には「議員」の一人として記されていました。

#### 4 レベッカ・カーティス

レベッカには9人の子供がいました。長男はサミュエル・ジュニアでした。

#### 5 サミュエル・スミス・ジュニア

サミュエルは、クリスチャンとして、地域の指導者として、またアメリカ独立戦争の支持者として有名でした。

#### 6 プリシラ・グールド

プリシラは5人の子供を産み、他界しました。プリシラの死後、プリシラの間がサミュエルと結婚し、プリシラの産んだ子供たちを育てました。

#### 9 ジョセフ・スミス・シニア

ジョセフ・シニアは神を信じる善良な男性でした。妻のルーシーとは、バーモント州タンブリッジにあったルーシーの兄の店で出会い、1796年に結婚しました。ジョセフ・シニアは、やがて訪れる福音を予感させる夢を数回見ました。その夢はまた息子が召しを果たすのを支えるためにジョセフ・シニアを備えさせました。ルーシーはジョセフのことを「愛情豊かな伴侶であるとともに、家族の信頼を勝ち得ただれよりも優しい父親」<sup>3</sup>と語っています。

ジョセフ・シニアは福音が回復されたときに最初にバプテスマを受けた一人で、この神権時代において最初の祝福師になりました。

#### 8 メアリー・デューティー

メアリーには11人の子供がいました。メアリーは夫とともに新しい農地を求めてマサチューセッツ州からバーモント州へ移住しました。後年、メアリーは孫が預言者であるという強い証を持ちました。1836年、メアリーは聖徒たちと合流するためにオハイオ州カートランドへ行きました。カートランドに到着して10日後に亡くなりました。

# ジョセフ・スミスの

「ジョセフ・スミス」アルビン・ギティンズ画

## 7 アサエル・スミス

1744年に生まれたアサエルは預言者ジョセフの祖父でした。パーモント州タンブリッジに30年間居住し、その間何度も公職に選出されました。アサエルが果たした地域への貢献は有名でした。アサエルは神が愛にあふれた御方であること、死後の世界を信じていました。また、救い主に対する証も持っていました。アサエルはこのように将来のことを言い当てました。「神が自分の家族のある枝を起こして人類のために大いなる利益をもたらしてください。」<sup>4</sup>

老年になって、アサエルはモルモン書を読みました。1830年の終わりに亡くなったときには、アサエルはモルモン書が真実であり、孫が預言者であることを知っていました。

## 10 ルーシー・マック

ルーシーは19歳くらいのとき、キリストの教会はもはや地上に存在しないという結論に達しました。あるとき、重い病気で苦しんでいたルーシーは、命を助けてくださるよう主に懇願し、もし助けてくださるなら最善を尽くして主に仕えようと約束しました。ルーシーは慰めの声を聞きました。そして、主に近づくために宗教を求め続けました。ジョセフ・スミス・ジュニアはルーシーの5番目の子供でした。ジョセフが回復した福音は母ルーシーの祈りへの答えとなりました。ルーシーの子供は、出生後間もなく名付けられる前に亡くなった子供、アルビン、ハイラム、ソフロニア、ジョセフ、サミュエル、エフライム、ウィリアム、キャサリン、ドン・カーロス、ルーシーです。

## 15 ジョン・マック

ジョンはジョセフ・スミス・ジュニアの高祖父でした。16歳のときにスコットランドのインバーネスを出発し、1669年にニューイングランドに着きました。

## 16 サラ・バグリー

サラと夫は生涯のほとんどをコネティカット州ライムで過ごしました。二人には12人の子供がいました。<sup>5</sup>

## 13 エビニーザー・マック

エビニーザーはジョン・マックとサラ・マックの8番目の子供でした。エビニーザーと家族はマック家の土地に住んでいましたが、財政的に窮迫していました。

## 14 ハンナ・ハントリー

ハンナは30歳のエビニーザーと結婚しました。

## 11 ソロモン・マック

1732年に生まれたソロモンは、4歳から21歳まで近所の農夫のもとで奉公を続けました。その後、フレンチ・インディアン戦争に志願して軍隊に入り、商人、土地開発業者、船長、農夫など様々な職を転々となりました。また、倒木の下敷きになるなど、多数の不運な出来事を経験しました。後年に及んで聖書を読み、神への奉仕と献身のために生涯をささげました。

ソロモンはジョセフが最初の示現を受けて数か月後に亡くなりました。

## 12 リディア・ゲーツ

リディアは学校の教師でした。1759年にソロモンと結婚し、8人の子供に、そして恐らく夫にも、読み書きや宗教について教えました。

## 13 ジョセフ・スミス・ジュニア

1805年12月23日、預言者ジョセフは11人きょうだいの5番目として生まれました。ジョセフは1827年にエマ・ヘイルと結婚しました。2人の養子を含めて、12人の子供がいました。1844年6月27日、ジョセフは殉教しました。「〔彼は〕覆くつがえされることのあり得ない誉れと名声を残した。彼は神とその民の目に偉大な者として生き、偉大な者として死んだ。」(教義と聖約135:3)



# 家系図

# 質疑応答

「友達は、ジョセフ・スミスのお話を信じなくてもよいのなら、教会に入りたいと言っています。どのように答えたらよいでしょうか。」

## 『リアホナ』からの提案

**ジ**ョセフ・スミスがいなかったら、教会はどうなっていたでしょう。神権や預言者は存在していたでしょうか。モルモン書、神殿、永遠の家族、近代の啓示はあったでしょうか。またわたしたちは神会の本質を理解していたでしょうか。

あなたの友人は、教会の中に好きな点や信じていることがあるようですね。もし教会は良いもので、神の教会であると信じているのであれば、ジョセフ・スミスは神から召されたに違いないと彼に伝えてください。預言者ジョセフ・スミスがいなければ、教会もなく、わたしたちが生活の中で受けている恩恵もないのです。

あなたの友人は、背教が起きたことと、教会、神権、イエス・キリストの福音の回復が必要だったことを理解していますか。また教会はいつのときもモーセやアブラハムのような預言者に導かれていることを理解していますか。もしそのように理解しているなら、ジョセフ・スミスは主が次のように語られた預言者であることを証してください。「わたしの言葉を……伝える力を彼に授けよう。」(2ニーファイ3：11)そして「暗黒から、また暗闇から、……唯一まことの生ける教会をもたす力を」授けよう(教義と聖約1：30)。

福音が地上にあるときは、  
預言者が教会を導きます。  
ジョセフ・スミスは最初の  
末日の預言者でした。

ジョセフ・スミスの  
働きを通して多くの  
祝福が与えられました。  
ジョセフはモルモン書を  
翻訳し、教義と聖約にある  
啓示を受けました。  
神権もジョセフを通して  
回復されました。

これらの祝福が  
神から与えられた  
と信じるなら、  
ジョセフ・スミスが  
神から召されたことが  
分かるようになるでしょう。

友達に  
証を伝えてください。  
そしてモルモン書と  
ジョセフ・スミス—歴史を  
研究し、それについて  
祈るよう勧めてください。

ジョセフ・スミスが神から召されていることを示すもう一つの証拠はモルモン書です。あなたの友人はモルモン書を読むときに、祈りながら尋ねることができます。「ジョセフ・スミスはモルモン書を自分で書いたのでしょうか。それとも神の力で翻訳したのでしょうか。」主はジョセフ・スミスに『モルモン書』を翻訳する力を与えたと述べておられます(教義と聖約1：29)。もしモルモン書が真実であれば、ジョセフ・スミスは真の預言者であったということになります。

あなたの友人の証は、周りの人の証を聞くことで強められます。彼がまだ宣教師と会っていないのであれば、会うように誘ってみてください。(高価な真珠の)ジョセフ・スミス—歴史に書かれているジョセフ・スミス自身の証を読むのもよいでしょう。これらの証は御霊を招き、ジョセフ・スミスの経験が真実であることを確信させてくれます。

最後に、ジョセフ・スミスのように信仰を持ちながら祈るよう勧めてください。心から真理を求めれば、御霊の確認を受けることができるでしょう。





写真/デビッド・ストーカー、写真はイメージです

## 読者からの提案



ジョセフ・スミスがいたからこそ、またジョセフ・スミスが御父である神とその御子イエス・キリストにまみえたという驚くべき示現

があったからこそ、わたしたちの教会は存在していると思います。友達の心が和らぐように祈ってください。そして真心から祈るように勧めてください。神はその祈りを聞き、こたえてくださるでしょう。

ワシントン州セラステーク

ナチェスワード

ケイトリン・バードウェル, 19歳

この教会の一員となるには、ジョセフ・スミスの業に対して強い証を持たなければなりません。イエス・キリストの福音は預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたこと、教会が真実か否かはジョセフ・スミスの最初の示現に基づいていることを理解しなくてはなりません。友達を助けるために、ジョセフ・スミスに対する証を伝え、愛と友情の良い模範を示してはどうでしょうか。

ロシア・サクトペテルブルク地方部

サクトペテルブルク・ツェントラルニー支部

アンナ・ラブレントリーバ, 18歳

ジョセフ・スミスの使命は、教会員の証の土台の一つとなっています。福音の回復がジョセフ・スミスを通して行われたからです。もしジョセフ・スミスの経験が偽りならば、教会も間違っていることとなります。反対に、ジョセフ・スミスの経験が真実ならば、教会とその教えは真実であるということになります。ですから福音を学んでいる人は教会に入る前に、まずジョセフ・スミスの経験が真実であることを受け入れる必要があるのです。

フィリピン・バギオステーク

バギオ大学ワード

クリスティーナ・E・バリアオ, 21歳



神は現代の預言者を通してキリストの福音を回復されました。それによって神は、<sup>きょう</sup>今日も、明日も、そして永遠に変わることのない御方であると、再び示されたのです。

デンマーク・コペンハーゲンステーク  
バラールuppワード  
アンドレアス・ストックホルム・バクスター、17歳

ジョセフ・スミスの物語が真実であることを証してみてください。証が友達にどれほど大きな影響を与えるか驚くことでしょう。ジョセフ・スミス—歴史を読んで、それが真実かどうか、神に尋ねるよう友達に言ってください。モルモン書が神の言葉であると信じているのであれば、ジョセフ・スミスの経験も真実でなければなりません。ジョセフ・スミスは神の力でモルモン書を翻訳したに違いないのです。友達が教会のほかの教義を真実だと感じているならば、それはジョセフ・スミスの経験が真実であると信じるのと同じことになるのです。

アイダホ州シュガーシティーステーク  
シュガーシティー第3ワード  
ジョーディ・ハント、13歳



最初の示現、真の教会の回復、神の預言者であるジョセフ・スミスに対する証がなければ、この教会が真実であると信じることは不可能です。もし疑いがあるならば、神に尋ねて

みるとよいでしょう。そうすればヤコブの手紙第1章5節やモロナイ第10章3節から5節で約束されているように、神は祈りにこたえてくださいます。フロリダ州フォートローダーデール伝道部  
ハビエル・ブリド長老、21歳

回復された福音に対するわたしたちの信仰は、ジョセフ・スミスの示現が実際に起きたということ<sup>を</sup>を基盤としています。ジョセフ・スミスがいなければ、モルモン書もなく、教会もありません。なぜなら主はジョセフ・スミスを通して教会を回復されたからです。もし友達がそれを信じられず、証がないのであれば、祈らなくてはなりません。

オーストリア・ザルツブルクステーク  
リンツウルファーワード  
ファビオラ・エルラヒャー、15歳



「わたしたちは、  
父なる神と  
その御子である

主イエス・キリストが  
少年ジョセフ・スミスに  
その御姿を

現されたことを、  
いざさかの  
あいまいさもなく、  
はっきりと宣言します。

……わたしたちの  
民の強さは、  
その示現が真実である  
ことにあります。

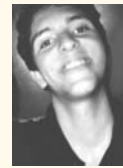
その出来事が  
実際に起きたか、  
起きなかったか、  
どちらかなのです。  
もし  
起きなかったとすれば、  
この業は間違っています。  
もし起きたのなら、  
天の下で、  
最も重要で  
最もすばらしい業  
ということになります。」

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー  
「わたしたちの  
信仰の驚くべき基盤」  
『リアホナ』2002年11月号、  
80



ジョセフ・スミスに対するあなたの証を友達に伝えてください。ジョセフ・スミスの経験を読んで、それについて祈るように言ってください。ジョセフ・スミスが答えを得たよう

に、友達も答えを得るでしょう。  
アリゾナ州グローブステーク、グローブ第1ワード  
レベッカ・パーク、16歳



ジョセフ・スミスを通してもたらされたイエス・キリストの福音の回復は、わたしたちの宗教の頂点です。福音の回復がなければ、キリストの教会を組織するために必要な権能

は地上に存在しなかったでしょう。神はお変わりになることはありません。神は御自身の計画を達成するために、いつの時代も預言者を召してこられました。そして今後も召されることでしょう。  
ブラジル・イタブーナステーク、イルヘウス中央支部  
ステファン・セルケイラ・レビータ、18歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する意見を、氏名、生年月日、住所、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて(写真掲載に対するご両親の許可書とともに)、郵送か電子メールでお送りください。

あて先——Questions & Answers 1/06  
50 E. North Temple St. Floor 24  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メール——

cur-liahona-imag@ldschurch.org  
2006年1月15日必着で送付してください。

## 質問

「わたしの両親は離婚しています。神殿で結び固めをしていないので、ほんとうの末日聖徒の家族ではないように感じるがあります。最近、教会でもひややかな気持ちになります。このような気持ちにどう対処すればよいでしょうか。」■

# イエス・キリストの贖い<sup>あがな</sup>を喜びとする



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証<sup>あかし</sup>を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うよう勧めてください。

**預言者ジョセフ・スミス**——「わたしたちの宗教の基本原則は、イエス・キリストが死んで、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたという、主に関する使徒と預言者たちの証です。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するにすぎません。」(History of the Church, 第3巻, 30)

わたしたちはどのように贖い<sup>あがな</sup>を喜びとしているでしょうか。

**ローマ5:10-11**——「もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。そればかりではなく、わたしたちは、今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。」

**大管長 ヒーバー・J・グラント**——「わたしは、イエスがわたしたちの長兄であり、世の贖い主であられること、イエスの名は、それによってわたしたちが救いを得、天の御父と救い主、また先に逝った愛する人々とともに住むことを可能にする天下で唯一の名であることを知っていることに喜びを感じて

います。」(『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』225)

**十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル**——「イエスの栄えある贖罪は人類史上最も重要な行為です。贖罪により全人類は復活し、個々人が悔い改め、救<sup>ゆる</sup>されるようになりました。……わたしたちは罪から離れるまで、思いを変え、行動を変えていかなければなりません。……このように、悔い改めとは段階に従いながら継続するものであり、真の救い、真の赦し、真の進歩を与える贖いの効力を受けるために、人は皆悔い改める必要があります。……偉大な贖罪の祝福を求めるか否かは、わたしたちにゆだねられているのです。」(『偉大な栄えある贖罪を証する』『リアホナ』2002年4月号, 7-8, 12参照)

どのようにすれば贖い<sup>あがな</sup>の祝福を求めることができるのでしょうか。

**十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン**——「福音に必須の数々の儀式は贖いを象徴しています。水に沈めるバプテスマは、贖い主の死と埋葬と復

にし、救い主の引き裂かれた体とわたしたちのために流された血を思い起こします。神殿の儀式は、主との和解を象徴し、家族を永遠に結び固めます。神殿で交わした聖約<sup>たまもの</sup>に忠実であれば神の最も大いなる賜物……である永遠の命にふさわしくなれるのです。」(『贖い』『聖徒の道』1997年1月号, 41)

**中央扶助協会第二副会長 アン・C・ピンダリー**——「主を生活の中心とすることは不可欠です。この『危険な時代』にあって、わたしたちはどれほど主を必要としているでしょうか。主は強さと安全の源です。主は光であり、命です。主の平安は『人知ではどうも測り知ることのできない』ものです。わたしたち一人一人の救い主であり贖い主である御方は、手を差し伸べ、『キリストのもとに来』るよう招いておられます。……主がいつでもとも<sup>あわ</sup>にいてくださることを証します。主の憐れみ深い愛の御腕が……差し伸べられているのです。」(『それゆえに、あなたがたは主キリストを選びなさい』『リアホナ』2003年11月号, 110, 112) ■



活を象徴しています。聖餐<sup>せいさん</sup>を取ることで、バプテスマの聖約を新た



# 熟年伝道の祝福

年配の宣教師から祝福を受けるのは、宣教師本人とその奉仕を受ける人々とどまりません。  
故郷に住む子供や孫たちも祝福を享受するのです。

## おじいちゃんとおばあちゃんを祝福してください

マーク・クレーン

そのことに気がついたのは、母から最初の手紙を受け取ったときです。父と母は宣教師としてフロリダ州タラハシー伝道部に赴任したばかりでした。手紙には最近の大会に出席したときのことが書かれていました。集会が終わって互いに別れのあいさつを交わしていると、母は父の姿を見失いました。男性の笑い声がする方へ行ってみると、何と教会の教室で、父が音頭を取って足相撲トーナメントが始まっていたのです。手紙には「行ってみると、ちょうど、お父さんが20歳くらいの長老にはじき

飛ばされるところだったわ」と書かれていました。伝道が父をきまじめな老人に変えてしまうのだろうかという心配は、それで解消しました。

その手紙を読んで、宣教師の親を持つ子供の喜びと祝福がどんなものか多少分かりました。わたし自身が青年時代に伝道していたころは、家族はわたしの手紙を楽しみにしているのだらうと、漠然と思っていました。しかし、まだ物事を自分の視点だけから解釈しがちな年齢だったせいでしょう、家族がどれほどわたしの成功を望んでいたのか、伝道期間中わたしのためにどれほど祈り、心配していたのか、十分理解していませんでした。

いざ立場が逆転すると、伝道地から便りが届いていないか、郵便物の束を毎日探し、手紙を一行一行くまなく読む自分に我ながら驚き、うれしくさえなりました。すぐに、家族の祈りがもっと熱心なものになったことに気がつきました。子供たちは「宣教師たちを祝福してください」という一般的な言葉で祈るのをやめ、「伝道しているおじいちゃんとおばあちゃんを祝福してください」という具体的に焦点を当てて祈るようになったのです。

両親が初めて伝道に召されたときは、まだ50代半ばでしたから、自分の仕事を現役でしていました。しかし農業という仕事から、冬場は主の奉仕に携わることができたのです。そのようなわけで、両親は6か月の伝

クレーン長老夫妻(右)と、  
バプテスマを受ける人と、  
その改宗を助けた  
会員宣教師(左)。



道の召しを受けました。その6か月はあっという間でした。

帰って来た両親を見たときは、とてもびっくりしました。二人とも別人のように活気に満ちていたのです。伝道を終えた若い息子、娘の変化に、たいていの両親が目を見張りますが、父と母に現れた変化もそれに匹敵するものでした。最も劇的な変化は、二人にあふれんばかりのエネルギーが満ちていたことです。熱意は何よりの良薬です。外見も行動も若返っていました。母は幾つか慢性病を抱えて長年元気がありませんでしたが、病気のことは気に留めていませんでした。さらに、気のせいか、二人の愛が深まったように見えました。ある日、母と二人だけで話しました。わたしはそのときのことを決して忘れないでしょう。母は父がどんなに力強く福音を教えたか話してくれました。「お父さんはほんとうにすばらしい人よ」と言った母の声には愛情と敬意があふれていました。伝道は楽しかったようです。伝道について話すときはたいてい、二人して笑いだし、いつまでも笑い続けているのです。

両親の伝道は1度だけで終わりませんでした。翌年の冬も、二人はまたフロリダに行きました。6か月単位の伝道はさらに8度続き、合計で10回奉仕しました。父と母は家族の大事な節目(例えば孫の誕生や命名式、バプテスマ、それに10年分の感謝祭とクリスマス)と一緒にいられませんでした。犠牲とは感じていませんでした。祝福の方があまりにも大きかったからです。

模範を示してくれた両親に心から感謝しています。わたしたちは福音を分かち合う責任について子供に教えようと努めていますが、愛する祖父母が安楽な引退生活を先送りして主に奉仕したことが、何よりも力強い教えとなりました。この模範の力は親戚中に伝わっています。

数年前、長男のマットがカリフォルニアで伝道していたときに、ちょうど両親もバージニアで伝道していました。マットは家族への手紙の中で、伝道の厳しさについて一度として不平を述べませんでした。それはマットの祖父母のおかげだと思います。60代後半の祖母が肺の病気や腰痛、そして数々のアレルギーを抱えて、別の州で戸別訪問しているのを知りながら、身体的に絶頂期にある若い長老がどうして不平など言えるのでしょうか。

父と母の伝道は、子育てが終われば親の責任は終わるといふ考えが間違っていることを教えてくれました。確かに子供時代に受けたしつけはかけがえのないものでしたが、父と母が親としてくれた最も偉大な業は、わたしが大人になってからしてくれたことだと思うのです。二人は多くの人々のバプテスマと活発化の力になりましたが、いちばんの功績は孫

たちを教え導いてくれたことだったと思います。

両親から届く手紙は福音の教えで満ちていました。ワシントンD.C.の中心部にある支部で奉仕したときの経験や、求道者を教えるためにグランドキャニオンの谷底まで徒歩で行ったこと、シングルマザーたちや、裕福な株式仲買人、漁師、陶芸家、農家、麻薬中毒者、アルコール中毒者、牧師、警官、お年寄りを苦勞して助けた経験がつづられていました。すべての人が価値ある存在であることを孫に教えるのに、これほどすばらしい方法があるのでしょうか。

父と母がわたしたち子孫にしてくれた最高のこと、それは、わたしたちを主の手にゆだね、召しを受け入れて、宣教師として主に奉仕したことです。■

マーク・クレーンはユタ州モーガンステーク、モーガン第9ワードの会員です。

## すばらしい再会

### エジナー・イバーセン

わたしと妻のマーサは故郷のカナダを離れ、デンマーク・コペンハーゲン伝道部で奉仕するよう召されました。ユタ州プロボにある宣教師訓練センターで2週間、高揚した思いで多くのことを学んだ後、ソルトレーク・シティーから長時間飛行機に乗り、1999年6月22日にコペンハーゲンに到着しました。空港でラスマッセン伝道部長夫妻の出迎えを受け、2日間お世話になりました。それから車を与えられ、オベンローという町に住み、セナーボア支部で伝道活動と会員記録の整理を手伝う割り当てを受けました。

最初の日曜日、聖餐会せいさんの前に会員たちにあいさつし、自己紹介をしました。中年の男性と握手しながら、わたしは言いました。「エジナー・イバーセンと申します。」「ベント・ビスガードです」と彼は答えました。顔を見合わせ、互いに目を疑いました。何と、あのベント・ビスガードではありませんか。彼は32年前にカナダのわたしの家に下宿していたときに教





伝道に出なかったら、イバーセン長老と姉妹は大切な友人と再会する機会を逸していたことでしょう。

会員になったのです。今はフレデリシアに住んでいるのですが、ちょうどその日、この支部で話をする割り当てを受けて訪問したというのです。何とすばらしい再会でしょう。とても偶然とは考えられません。妻とわたしには、わたしたちを歓迎するために天の御父が彼を遣わしてくださったように思えてなりませんでした。

ベントがカナダのブリティッシュコロンビアへ来たのは、1967年のことでした。当時わたしはブリティッシュコロンビアの職業安定所で働いていました。ベントは仕事とアパートを探していました。わたしはベントに仕事を見つけてあげ、妻と相談して、もう一人下宿人を増やすことにしました。我が家にはすでに二人の下宿人がいました。その中の一人は、スベン・ハンセンという熱心な教会員でした。

程なく、スベンはベントにモルモン書を読むよう勧めました。ベントはモルモン書の誤りを指摘するつもりで、その勧めを受け入れました。しかし結局何の誤りも発見できず、ベントはバプテスマを受けることを決意したのです。新築のステークセンターでバプテスマ第1号となりました。

それから間もなく、ベントはデンマークへ帰ったのですが、わたしたちはベントが教会と接触を保てるかどうか心配しました。ベントがデンマークへ帰って初めて教会に出席したのは、たまたま断食日曜日でした。一人で礼拝堂の後ろの席に

座っていると、急に証を述べるように依頼されたのだそうです。それまで英語でもデンマーク語でも証を述べたことは一度もありません。逃げ出したい気持ちをこらえて立ち上がり、スベン・ハンセンにモルモン書を読むように勧められたことを話し始めました。スベンの名前を言った途端、人々は驚いて顔を上げました。スベンの友人がたくさんいたからです。集会后、大勢の人たちがベントにスベンの消息を尋ねました。

こうしてベントはあっという間に多くの友人を作り、支部に溶け込むことができたのです。それ以来、長年にわたって青少年関連の召しを果たし、また、デンマーク・オーフスステークの高等評議員として奉仕してきました。

妻とわたしは、ベントやスベンと長年の友人であることをうれしく思います。もし夫婦宣教師として奉仕しなかったら、このようすばらしい再会を果たすことはできなかったでしょう。■

エジナー・イバーセンはブリティッシュコロンビア州アボッツフォードステーク、チリワックワードの会員です。

## いや 癒された心と家族歴史

ブリュンヒルデ・ゲルマン

わ たしたちは、オーストラリアのクイーンズランドの東岸に住んでいますが、ドイツ人です。夫のジークフリートはダンツィヒの生まれで、わたしは現在チェコ共和国になっている地域で生まれました。伝道を考えていたころ、わたしたちには心配なことがありました。次々に孫が生まれていましたから、家族から離れるのはとてもつらいことでした。小さな我が家を貸すのは不可能でしたし、財政的な心配もありました。二人で話し合い、伝道に出ることの望ましい点と難点をすべて挙げてみました。しかし、最終的にはひざまずいて、天のお父様の導きを願うことにしました。それからはとても簡単でした。二人とも平安を感じ、伝道に出るべきだと確信することができたのです。

監督からもらった申請書には赴任先の希望国を書き込む欄がありました。もちろん、ドイツを希望しました。地球の反対側に召される可能性はそう高くないだろうと思いましたが、天の御父はわたしたちに何がなかをよく御存じでした。わたしたち夫婦はドイツのフライベルク神殿で奉仕するよう召されたのです。わたしの胸は高鳴りました。子供のときに使っていたチェコ語がまだ理解できましたし、少しですが話すこともできたからです。東ヨーロッパの会員たちがよくフライベルク神殿に参入することも知っていました。

わたしたちの奉仕は1992年2月25日に始まりました。神殿長はイジー・スネデルフレル兄弟で、オルガ夫人がメイトロン(訳注——神殿長夫人。神殿で奉仕する女性の必要を満たす責任を持つ)を務めていました。二人は愛情深く、いつも親切で、ほんとうにすばらしい人たちでした。

フライベルク神殿での経験は良いことばかりでした。皆親切で優しい人たちでした。わたしたちは熱心に奉仕し、神殿で奉仕する大勢の人々はまるで家族のように愛し合いました。今も多くの人たちと連絡を取り合っています。

わたしたちの伝道のハイライトは、ウクライナから初めて会員が訪れたときでした。わたしたちは自らを備える必要がありました。伝道部長夫人はロシア語を話すので、わたしも儀式の一部をロシア語で覚えました。ウクライナから来た会員たちは主の宮に対してとても敬虔でした。神殿に来たとき、そして神殿から帰るときに、へりくだって頭を下げる様子が印象的でした。皆、自分のエンダウメントを受けることができ、心から喜んでいました。多くの人がうれし涙を流し、神殿を去り難い様子でした。

ポーランドの会員たちは頻りにフライベルク神殿を訪れました。夫は最初、ポーランドの会

員に会うことに抵抗を感じていました。第二次世界大戦終結後、祖母がポーランドの収容所で餓死したからです。しかし、神殿を訪れた兄弟姉妹と触れ合い、ともに礼拝することを通して、夫の心は癒されました。これは伝道を通して得られた大きな祝福でした。

わたしにとって、マリエ・スミドバというチェコ人の姉妹と知り合えたことは大きな祝福でした。スミドバ姉妹の助けを受けて、自分自身の家族歴史の探求を始めることができたのです。教会のマイクロフィルムの中には、わたしが必要としている地域の情報がありませんでしたし、チェコ語の知識が不十分だったため、情報を得るためにチェコの役所に手紙を書くこともできませんでした。スミドバ姉妹は労をいとわず助けてくれました。彼女の助けに心から感謝しています。

18か月後に伝道から帰還したとき、財政状況が大きく改善されていることに驚きました。小さな我が家は健在でしたし、子供たちは心のこもった歓迎会を開いてくれました。それから1年して、わたしたちはオーストラリアのシドニーで神殿宣教師として1年間の奉仕を行うことができました。

伝道を通して得られた多くの経験に感謝しています。すべての熟年夫婦の皆さんにスペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)の「今すぐ実行なさい!」という言葉の思い起こしてほしいと思います。■

ブリュンヒルデ・ゲルマンはオーストラリア・ナンボーステーク、カワナウォーターズワードの会員です。

**ゲルマン夫妻は  
ドイツとオーストラリアで  
神殿宣教師として奉仕しました。**



## 教会の 監督たちへ

「**も** っと多くの  
夫婦宣教師が  
絶えず

必要とされています。  
彼らは世界中で  
すばらしい働きをします。  
〔指導者の〕皆さんは、  
夫婦が志願するのを  
待っている必要は  
ありません。  
全時間を使って  
主に仕えることに  
伴う犠牲は、  
夫婦とその家族、そして  
彼らが仕える人々に  
豊かな祝福を  
もたらします。」

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー  
「教会の監督たちへ」  
『世界指導者訓練集会』  
2004年6月19日, 27





家族を強める

## 状況に適應する

「家族——世界への宣言」の個人的な学習と活用へのヒントを与えるシリーズの最終回です。

「父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。」<sup>1</sup>

### 理想とのギャップ

理想の世界では、すべての成人が幸せに結婚し、夫婦はすべて子供に恵まれ、家族は皆健康で従順で、互いに助け合っているでしょう。しかし、そのような理想的な人生は、めったにあるものではありません。人はそれぞれ苦難を経験します。また現世では、家族に問題は付き物です。わたしたちは試練や弱さ、病、死



別を経験しなければ、地上で学ぶべき事柄を学ぶことはないでしょう。スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)はこのように説明しています。「現世を一つの完結した生活だと考えると、痛みや悲しみ、失敗や短命は不幸な出来事となるでしょう。しかし、人の生涯は永遠であり、前世という過去から死後という将来にわたってとこしえに続くという見地に立てば、すべての出来事を正しい見方で見ることができるでしょう。」<sup>2</sup>

### 変わっていく責任

病や心身の障害、死別、離婚その他の破壊的な要因が、試練を生み出すことがあります。そのような状況の下では、役割分担に関して



「個々に修正を加え」る必要もあるでしょう。父親が家事や育児の責任をさらに引き受ける必要があるかもしれません。あるいは、専業主婦である母親が勤めに出る必要に迫られることもあるでしょう。子供たちでさえも新たな責任を引き受ける必要があるかもしれません。

生活を揺るがすような事態が起こった場合、親族も援助に加わる必要が生じることもあります。経済的な支援もあれば、時間を割いて子供の面倒を見、家事を手伝い、病気や体の不自由な家族の世話をすることも支えになれるものです。親族がどれほど援助するかは、状況や家族の必要によって決まります。

逆境が深刻なものでないときでも、親族は重要な支援を行うことができます。十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老はこのように教えています。「この混乱した世の中であって、家族を支え得る強い土台を築くには、父母、兄弟姉妹、祖父母、おじ、おば、いとこなど、一人一人の最高の働きが求められてきます。永遠にわたって耐える力が土台に備わるようになるまで、一人一人が力を尽くして、福音という岩盤に杭を打ち込んでいかなければならないのです。」<sup>3</sup>

## 逆境

なぜ家族が逆境や逆境がもたらす混乱に耐えなければいけないのだろうかと思うかもしれません。その答えとさらに慰めを見いだせるところは福音の永遠の見地の中です。使徒パウロは、「このしばらくの……患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させる」と教えています(2コリント4:17)。なぜ、このようなことが可能なのでしょうか。

七十人会長会のメルル・J・ベイトマン長老はこのように指摘しています。「愛する人の死、期待とは異なる結婚、結婚に至らないこと、離婚、障害を持って生まれる子供、子供がいないこと、失業、過ちを犯す両親、道を踏み外す息子や娘、病気など、試練と苦難には数え切れないほど様々な形があります。神は御自身の計画の中でなぜ落胆や苦痛、苦悩、死の存在を許しておられるのでしょうか。キリストを中心とする生活を築き、わたしたちの顔に神の面影を受けるためには逆境が必要なのでしょうか。



**永** 遠の見地に  
立たなければ、  
現世で直面する  
様々な試練について  
納得のいく説明を  
行うことはできません。

救いの計画を理解し、前世と地上の生活と死後の世界を理解することによって……必要な物の見方を身に付けることができます。……選択の自由を持ち、霊的な成長を遂げるには、反対のもの、落胆、苦痛、苦しみ、死が必要で(2ニーファイ11章参照)。もし、人生がこの世の経験だけで終わるとしたら、逆境を理解することはできません。……永遠の見地に立たなければ、人が人に対して行っている無慈悲な行為や、地震、洪水、あるいは障害を持つ子供たちについて納得のいく説明を行うことはできません。

地上から落胆や試練や逆境を一掃し、自分だけに栄光を求めていたのはサタンであったことを忘れてはなりません。」<sup>4</sup>

## 贖罪による癒し

現世は試しの世ですが、神の助けは必ずあります。十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老はこう語りました。「まず大切なのは、主の癒しの意味を知ることです。主の癒しには、傷が治り、重荷が軽くなるという意味があります。さらに、[主の癒しを受けると、]最後まで堪え忍ぶ価値を知ようになります。……

この地上では解決されない問題もあることを心に留めましょう。……癒されることが主の御心であるときには、わたしたちは癒しを受ける方法を学び、その問題を成長の糧とするよう主が意図されるならそれに対処する方法を学びます。それこそが主がわたしたちに望んでおられることで……す。

もうこれ以上は耐えられないと感じたら、少しの間、そのチャレンジを主の傍らに置かせていただきます。……謙遜な心とイエス・キリストへの信仰をもって求めるなら、主は天から力を注いで助けてくださるのです。」<sup>5</sup> ■

## 注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
2. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 38-39
3. 「善い父母から生まれたので」『聖徒の道』1985年7月号, 25
4. 「キリストを中心とした生活を送る」『リアホナ』1999年12月号, 20参照
5. 「癒し」『聖徒の道』1994年7月号, 7-8参照

# 袋いっぱいの食べ物と 20マルク

わたしたち家族は飢えていました。  
でも、食べ物を持って来てくれた女性も、  
助けが必要だったのではないのでしょうか。

マイヤ・カーリナ・マキネン

**擦**り切れてはいましたが清潔なクロスをテーブルにかけ、窓の外に目をやりました。1960年代、わたしは夫と二人の子供とともに、フィンランドのハメーンキュロという小さな田舎の村に住んでいました。4歳の娘マリカと、3歳の息子ベトリが、飼い犬と



一緒に、ところどころに生えた  
青草の上で遊んでいるのが見えました。夫  
は庭仕事に没頭しています。テーブルクロスの上  
を伸ばしてもう一度外を見ると、だれかが正面玄関  
に通じる小道を歩いて来るのが見えました。白髪交じり  
の女性で、少し足が悪いようでした。品のいい花柄のワ  
ンピースに長いエプロンを着け、どこから見ても貧しくは  
見えません。手には大きな袋を抱えています。

女性が台所に入ると、子供たちも後について中に入  
って来ました。女性は「こんなふうにおじゃましてすみませ  
ん。でも、どうしても来なければならなかったものですから」  
と話し、袋を持ち上げてテーブルの上に置きました。中は食  
べ物でいっぱいでした。バター、肉、ソーセージ、焼きたて  
のパンがテーブルの上に広げられ、子供たちの手にも渡さ  
れるのを見て、わたしの目には涙が込み上げてきました。

「わたしたちのおばあちゃんになってくれる？」マリカが言  
いました。

「わたしでよければ喜んで。トイニおばさんと呼んでちょう  
だい。」女性はそう答えました。

そのとき、「だれか助けてくれる人を送ってください」と天  
の御父に祈ったことを思い出していました。トイニおばさん  
は祈りの答えでした。彼女は食べ物を持って来てくれただけ  
ではなく、愛についても教えてくれたのです。

### 森のそばの小さな家

ハメーンキュロでの生活は質素でした。わたしたちは美し  
い森のそばに小さな家を購入していました。当時、わたしは  
教会に入ったばかりで、夫は福音に興味を示していません  
でした。わたしたちは自立しようと懸命でした。ジャガイモな  
どの野菜を畑に植え、子供たちの衣類を縫い、自分たちの  
服に継ぎを当てました。フィンランド北部に住む母から思い  
がけないときに届く衣類は、生活に欠かせないもので、あり  
がたく思いました。

しかし、時がたつにつれて生活は厳しくなっていきました。  
わたしたち家族は、食事をかなり質素なものにしなければな  
りませんでした。子供たちが少しでも多く食べられるよう、  
夫とわたしはジャガイモだけというときもありました。そのこ  
ろからわたしはこう嘆願するようになりました。「主よ、どう  
か助けてくれる人を送ってください。」

わたしは仕事を見つきましたが、あまり家計の足しにはな  
りませんでした。バス代やベビーシッターへの支払いなどの  
経費を除くと、幾らも手もとに残りません。

困窮の中にあっても、わたしはいつも子供たちに、持って  
いるものすべてに感謝するように教えました。ペトリはしば

しば、このよ  
うに食事を祝福しま  
した。「天のお父様、このポリッジ(訳注——  
麦などで作ったおかゆ)を感謝します。でも、  
もしあれば、ソーセージもお願いします。」

そんなときわたしは、なおいっそう天の御父に懇願しまし  
た。「どうか助けてくれる人を送ってください」と。

### 分け与えるものは豊かに持っていたのに

トイニおばさんは、隣村で快適に暮らしていました。しかし、  
心は全然満たされていませんでした。昔のことが忘れられな  
かったからです。トイニおばさんはずっと裕福で、何でも余る  
ほど持っていました。しかしおばさんの妹は違いました。

妹は家庭を持ち、3歳の双子の娘がいました。あるとき妹  
の夫は仕事上の事故で重傷を負いました。そしてしばらくす  
ると、今度は妹が結核にかかったのです。失意の中、妹は姉  
のトイニおばさんを訪ね、わずか20マルクのお金と娘たちに  
食べさせるパンをくれるように頼みました。しかしおばさん  
は、自分本位であったために一切の援助を断りました。それ  
から間もなく妹は結核で亡くなり、妹の夫もけがが元で亡く  
なりました。3歳の娘たちは他人に引き取られて行きました。

### 毎週土曜日にささげた祈り

「妹が死んだのも、幼い子供たちがどこかへ引き取られて  
行ったのも、わたしのせいなのよ。」トイニおばさんは初め  
て会った日に打ち明けてくれました。その悲しいいきさつを  
聞き、わたしの視界は涙でぼやけました。そして、彼女は赦  
しを求めているのだと感じました。

「妹は、この家に住んでいたんだよ。」おばさんはそう言っ  
てわたしの目を見詰めながら20マルクを手渡しました。  
「取っておいて。そして神がわたしを赦してくださるよう、  
祈ってちょうだい。」程なく気持ちが落ち着いてきたおばさん  
は立ち上がり、こう言いました。「さて、一仕事しようか。」

わたしは薪を集めてくるわ。夕食を作りましょう。」

おばさんが井戸から水を運んでいる間、わたしはいつもとは違う祈りをささげていました。「天のお父様、袋いっぱい食べ物と20マルクに感謝します!」

トイニおばさんは、毎週土曜日の同じ時間に、袋いっぱいの食べ物と20マルクを持ってやって来ました。おばさんは「何をしたらいい?」とは尋ねませんでした。ただ仕事に取り組むのです。時には、1日か2日泊まっていくこともありました。そんなとき、おばさんはいつもいちばん早く起きて、ポリッジを作ってくれました。また、必要だろうからと言って、新しいなべやフライパンを買ってくれました。時々、手で洗濯をしてくれることもありました。

瞬く間に何週間かがたち、わたしたちはトイニおばさんが訪れる土曜日を心待ちにするようになっていました。時々、教会についておばさんに話し、何度も一緒に祈りました。マリカとペトリはおばさんが来る度に大変喜び、おばさんはいつもペトリにソーセージを持って来ました。おばさんは、わたしたちと一緒に過ごすのを喜んでいるように見え、わたしたちもおばさんに何かしらお返しをしていると思っていました。

### 花と愛

トイニおばさんが欠かさず来るようになってから3年がたちました。あるとき、土曜日になってもおばさんは来ませんでした。次の日も現れませんでした。後で聞いたのですが、トイニおばさんは店で買い物をした直後、わたしたち

を手向けることにしました。おばさんに感謝をささげ、お別れを言うために。

葬儀の後、一人の女性がそばに来て、トイニおばさんの娘であると告げました。「皆さんには一番にお花を供えていただければ良かったのですが。母に親切にしてくださいましたから。」女性は続けました。「母が変わったのは、なぜなのでしょう。母はけちで自分勝手な人でした。でも、最後の3年間は生まれ変わったようでした。思いやりのある、愛情深い人になっていました。」

この言葉しか思いつきませんでした。「それは愛です。」

### 家族と神殿の祝福

初めてトイニおばさんに会ってから40年以上がたちました。わたしは今も、食べ物の袋を運んでくれたおばさんから学んでいます。トイニおばさんはわたしの教師でした。どのように赦しを請い求めたらよいのか、またどのように奉仕をし、助けを与えればよいのかを教えてくださいました。そして、今分かるのは、わたしたちを養いに来ていたおばさん自身も、養われていたということです。

おばさんの葬儀から20年後、ペトリは、トイニおばさんが夫の遠い親戚であることを発見しました。わたしたちはおばさんのために神殿の儀式を行いました。幕のかなたでわたしたちが再会する日は、どんなに喜ばしい日となることでしょう。

トイニおばさんは、愛と心の変化について、霊を鼓舞するすばらしい模範を示してくれました。おばさんの食べ物が詰まった袋と20マルクをわたしは永遠に忘れないことでしょう。そして、その同じ道を、わたしも歩めるよう願っています。

それは、救い主が歩むよう示してくださったのと同じ道だからです。■

マイヤ・カーリナ・マキネンは、フィンランド・タンベレストーク、タンベレ第2ワードの会員です。

の小さな家に

向かおうとして倒れ、亡くなったのだそうです。

わたしは夫と子供たちとともに、トイニおばさんの葬儀に参列しました。だれも知っている人はいませんでした。そして、いつお墓に献花をすればいいのかも分かりませんでした。わたしたちは最後にお花

# 母と仲良くやっていく

ニコル・レリオス・ランドル

**多**くの青少年は10代の間に、両親と仲良くやっていくのに苦勞する時期があります。わたしは16歳のとき、母親と話をすると最後には必ず泣いてドアをピシャリと閉めることになると思うようになりました。

それまでになかったような口論をしたときのことでした。わたしはどなり声を上げながら自分の部屋に飛び込み、ドアを思い切り乱暴に閉めました。ベッドの上に身を投げ出したわたしの頬ほおを、熱い怒りの涙が流れ落ちました。「仲直りをするにはどうしたらいいの。この絶え間なく続く口論をやめるためにわたしに何ができるのかしら」という思いが脳裏をよぎりました。

そのとき、まるでモルモン・タバナクル合唱団が部屋にいるかのように、はっきりとこの歌詞が聞こえたのです。

「わが嘆き聞きて 弱きを慰む……心に喜びを与えて、生きたもう」(「主は生けりと知る」『賛美歌』75番)。そこに聖霊がおられ、天の御父の愛に包まれていると感じました。そしてすべてが解決することを知ったのです。

その日はわたしにとって転機となりました。天の御父はわたしに必要な事柄を御存じでした。音楽抜きにわたしの生活を語ることはできません。わたしは賛美歌を聞き、その歌詞を覚えることによって祝福されました。賛美歌はほんとうに必要なときに、慰めと力を与えてくれました。つらい時期を乗り越えられるように助けてくれるのです。

今では母とわたしは、いちばん仲の良い友達です。二人ともワードの初等協会で奉仕をしています。家庭だけでなく召しにおいても一緒に働けることを喜んでます。■

ニコル・レリオス・ランドルは、南アフリカ・ベノニステーク、スプリングスワードの会員です。

# 今では日曜日が大好きです

ルシル・ソートロン

**10**代のころわたしは、スポーツの学位を取得するという目標を立てました。その目標が達成できるように、主に何度も祈り、練習が土曜日になるように願い求めました。けれども、チームの練習は日曜日になりました。わたしは選択を迫られました。目標をあきらめるか、それとも教会を休むか。わたしにとっては両方とも大切だったので、妥協策を打ち出しました。それは日曜日に2回続けて練習に行って、3週目は教会に行くというものでした。しかし残念なことに、信仰をわずかに離れた結果、罪に陥り、苦しみを味わうことになったのです。

自分の過あやまちに気づくのに、長くはかかりませんでした。違うチームに入れるように頼みましたが、遅すぎました。もう取り返しがつきませんでした。自分でドアを半分開け、サタンは押し広げて全開にしたのです。ついにわたしは、競技をあきらめました。

わたしは二つの価値ある事柄を学びました。第1は、主と妥協する道を探すなら、非常に危険に陥るということです。第2は、日曜日の集会に行かなくても自分の信仰は大丈夫だと信じて誤った選択をしてしまったことです。霊にも肉体と同様に栄養が必要です。1食しか食べずに次の2食を抜いてしまうと、健康を維持することはできません。

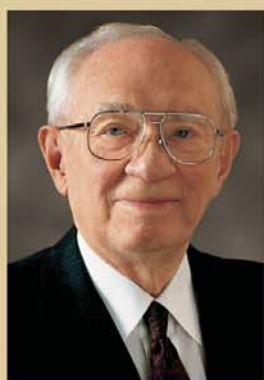
今では日曜日が大好きです。主は計り知れないほど、わたしの学業と健康を祝福してくださっています。■

ルシル・ソートロンは、スイス・ベルンステーク、バーゼルワードの会員です。

絵/サム・ローラ



# 大管長会 定員会



大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

教会の大管長  
および大管長会が  
全世界の教会に  
責任を持つことの  
意味は、  
教義と聖約に記された  
啓示によって  
明確に  
定義されています。

**教**会が組織された当初から、教会全体を管理する権能が存在してきました。1830年4月6日、その権能は、「神から召されて、イエス・キリストの使徒に聖任され、この教会の第一の長老となったジョセフ・スミス・ジュニア……に与えられ」ました（教義と聖約20：2-3）。

それから2年とたたない1832年1月25日、ジョセフは「大神権の大管長会」に聖任されました（教義と聖約81：2。82章も参照）。

教会が発展するにつれ、さらに啓示が加えられ、大管長の職と大管長会定員会の定義が明確にされました。

「さらにまた、大神権の職の大管長の義務は、全教会を管理し、モーセのようであるこ

とで……神が教会の長に授ける神のすべての賜物を持つ聖見者、啓示者、翻訳者、および預言者となることである。」（教義と聖約107：91-92）

またこうあります。

「わたしはあなたがたに、わたしの僕ジョセフを与えて、わたしの教会のすべてを管理する管理長老とし、翻訳者、啓示者、聖見者、預言者とする。

わたしは彼に、副管長としてわたしの僕シドニー・リグドンとわたしの僕ウィリアム・ローを与えて、これらの者が全教会のために神託を受ける大管長会の定員会を構成するようにする。」（教義と聖約124：125-126）

「メルキゼデク神権を持つ者の中から、この団体によって選ばれ、その職に指名され、聖任され、また教会員の信頼と信仰と祈りによって支持された三人の管理大祭司が、教会の大管長会の定員会を構成する。」（教義と聖約107：22）





ゴードン・B・ヒンクレー大管長(中央), トーマス・S・モンソン第一副管長(左), ジェームズ・E・ファウスト第二副管長(右)は、ともに10年以上の歳月を大管長会で奉仕してきた。

### 啓示により定められたもの

教会の大管長および大管長会定員会が全世界の教会に責任を持つことの意味は、教義と聖約に記されたこれらの啓示によって明確に定義されています。

一方、十二使徒定員会は「前に述べた三人から成る大管長会と同等の権能と力を持つ」と言われています（教義と聖約107：24）。

同様に、七十人は「今述べた十二人の特別な証人、すなわち十二使徒の権能と同等の権能を持つ定員会を構成」します（教義と聖約107：26）。

どうして権能において同等であり得るのかと疑問に思うかもしれません。ジョセフ・F・スミス大管長（1838－1918年）はこの疑問に対してこう教えています。「人々の間に幾らか広がっている、誤った印象を正したいと思います。それは、十二使徒が教会の大管長会と同等の権能を持つということについてです。もし十二使徒以外に会長会が

存在しなければ、これは間違っていない。しかしながら、教会を管理する権能を有する3人の管理長老が存在するときは、十二使徒の権能は彼らと同等ではありません。もしそうであるなら、神権には二つの同等な権能と二つの同等な定員会が存在することになり、対立することになります。そのようなことはあり得ません。なぜなら、必ず長が要るからです。」（*Elders' Journal*, 1906年11月1日付, 43）

十二使徒定員会の指示の下に仕える七十人も同様で、大管長会および十二使徒定員会が何らかの理由により崩壊したときに限って同等の権能を持つことになります。

大管長会定員会が存在しないことがあったのは、何年も前の話になります。ジョセフの死後3年半の間、管理の職は、ブリガム・ヤングを会長とする十二使徒定員会にゆだねられていました。またブリガム・ヤングの死後、その権能は再び十二使徒定員会に戻り、3年2か月の間その状態が続きました。ジョン・テーラーの死後、再び大管長会が



**大管長会の指示の下、実際には十二使徒や七十人に  
教会の宗務に関してたくさんの責任が与えられています。**

組織されるまでには1年9か月の隔たりがありました。

そのとき以来、大管長会の再組織は、大管長の死後、数日でなされるようになりました。例外なく、教会の大管長には十二使徒定員会の先任会員が召されてきました。先任の順番は、使徒職に聖任された日付に基づいて決められます。

**責任の委任**

大管長会は教会のあらゆる側面を管理し、決定する権能を有していますが、世界中の教会における無数の活動を推し進めるためには、権能と責任を委任しなければなりません。

「十二使徒会は巡回管理高等評議会であり、天の規定にかなって教会の大管長会の指示の下に主の名において職務を行い、またまず異邦人のために、次いでユダヤ人のために、教会を築き上げ、すべての国々において教会の諸事をすべて整える。」

同様に、「七十人は、十二使徒会、すなわち巡回高等評議会の指示の下に主の名において行動し、……教会を築き上げ、すべての国々において教会の諸事をすべて整える。」  
(教義と聖約107：33-34)

このように、大管長会の指示の下、実際には十二使徒や七十人に教会の宗務に関してたくさんの責任が与えられています。この責任には地のもろもろの国民に福音を宣べ伝

えることや、教会員のかかわる種々のプログラムを管理することなどがあります。

これを成し遂げるためには、ほかにもしなければならぬ事柄があります。礼拝の家を建設・維持し、教会資料を翻訳しなければなりません。また印刷物を発行し、もろもろの実務事項を行う必要があります。これらの業務に対しては管理監督会が責任を負っています。ここでもやはり、大管長会の指示の下に、管理監督会が会員たちの什分の一や献金の収集方法、手段を確立し、貧しい人や嘆き悲しむ人の福利のために必要を満たすなど、多くの機能を果たしています。

こうして、比較的簡潔で分かりやすい管理組織により、教会は世界中の大規模なプログラムを推進しています。教会の組織は、宗務役員である七十人組織の拡大と、実務的な事柄を扱う職員を増やすことにより発展できるように構成されています。

さらに、信仰簡条にはこうあります。「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」(信仰簡条1：9)

要するに、わたしたちは途切れることのない啓示を信じているのです。教会の大管長には、教会全体についての啓示を受けるという特殊な責任が与えられています。ほかの幹部は、与えられた特定の責任と義務の範囲において啓示を受けることができますが、教会全体に影響を与える啓示は大管長だけに、そして大管長を通して与えられます。

**啓示による指示**

わたしたちには、教会員の支持により聖典として受け入れている標準聖典があります。当然、ここで疑問に思う人もいます。そのほかの啓示はそれ以後与えられたのか、そして、現在も与えられているのだろうか、と。

その点について、わたしには一点の疑いもありません。

わたしの教会での経歴は次のようなものです。十二使徒補助として3年半、この職は後に七十人第一定員会に組み込まれました。また、十二使徒として20年、大管長会として24年、そして過去10年は大管長として働いてきました。わたしは間違いなく啓示によってもたらされた変化を、数知れず目の当たりにしてきました。



わたしは何度か、メディアのインタビューを受けることがありました。そして例外なくこのように尋ねられました。「啓示はどのように教会の預言者に与えられるのですか。」

「過去に与えられたと同様に、現在も与えられます」とわたしは答えます。このことに関してわたしはメディアの人々に、エリヤがバアルの祭司たちと競った後の経験を詳しく話します。

「主は言われた、『出て、山の上で主の前に、立ちなさい。』その時主は通り過ぎられ、主の前に大きな強い風が吹き、山を裂き、岩を砕いた。しかし主は風の中におられなかった。風の後に地震があったが、地震の中にも主はおられなかった。

地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声が聞えた。」(列王上19:11-12)

これが啓示です。静かな細い声。祈りへの答えとして与えられ、御霊のささやきとして下ります。夜の静寂のうちに与えられることもあるでしょう。

疑問の余地があるのでしょうか。あり得ません。わたしは何度もそれを目の当たりにしてきました。近年の啓示で最も広く知られていると思われるのは、スペンサー・W・キンポール大管長（1895 - 1985年）に与えられた啓示でしょう。すべてのふさわしい男性が神権に聖任されることに関する啓示です（公式の宣言2参照）。この啓示の影響は非常に大きなものでした。

### たゆまめ発展

あまり広く知られていない啓示はたくさんあります。例えば、各地の教会運営に必要な資金調達についてです。教会員は長い間、什分の一と断食献金だけでなく、所属ワードの予算にも相当額の負担をしていました。土地と建物にかかわる資金調達にも参加してきました。そして大きな変化が起きました。そのような経費については、すべて教会の什分の一で賄うことになったのです。この変更は、啓示を基とした大いなる信仰を表しています。

今日、そのような資金は什分の一から充当されます。そして素晴らしいことに、教会の財政はこれ以上ないほど健全な状態にあります。主は、現在の啓示を通して、古代の約束を守ってくださっているのです。



小規模神殿の構想も、直接的な啓示により与えられたと信じています。その経緯は以前に何度かお伝えしたことがあります。小規模神殿を建設することにより人々にもたらされた祝福には、目を見張るものがあります。

もう一つ紹介しましょう。何年前のことですが、ソルトレークのタバナクルでは、総大会への参加を望むすべての人を収容できないことが明らかになりました。しかし、わたしたちに一体何ができたでしょう。

カンファレンスセンターの建設は大胆な取り組みでした。既存の建物を取り壊し、多額を費やしてこの大きなセンターを建てたのです。

現在、タバナクルは耐震補強工事と経年劣化を補強する改装工事のために閉鎖されています。わたしは自分自身に尋ねます。「もしカンファレンスセンターがなかったら、一体どうしていたのだろう。」

ほかにもたくさんの例を挙げることができます。もっと紹介してもよいのですが、もはや必要ないでしょう。神が古代と同様に現在も御心を明らかにしておられることは事実です。神は、御自身が任命した僕を通して教会を導いておられるのです。

大管長会は、非常に重い責任をその肩に背負っています。それに耐えることができるのは、大きくてよくまとまった組織があるからです。将来を憂える必要はありません。前進するために必要な体制は整っています。プログラムに若干の変更があるかもしれませんが、それは神の業であり、行く末は明らかです。「あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むように、そこから福音は地の果てまで転がり進む」ことを止めないのです（教義と聖約65：2）。

その行く末に疑いを抱かないでください。■



## 心からの贈り物

ルシア・リベロ・ロメロ

**19** 96年12月、わたしはメキシコ・モンテレー北伝道部の専任宣教師として働いていました。同僚は、ユタ州出身のまだ年若い姉妹です。わたしにとっては、子供たちや孫たちと離れて過ごす初めてのクリスマスでした。子供たちはどうしているだろうか、だれがクリスマスのディナーを準備しているだろうか、などという考えが頭から離れませんでした。何しろ、わたしは手も足も出せなかったのですから。

わたしの口数がいつもより少なかったのでしょう。同僚はわたしを抱き締めると、こう言いました。「あなたのためにとびきりのディナーを用意してあげるわ。」わたしは同僚の愛らしい顔を見詰め、澄んだ青いひとみをじっとのぞき込みました。わたしを見詰め返すそのまなざしは、まるで子供や孫たちのまなざしのようになり、愛に満ちていました。わたしも彼女にほほえみ返しました。

同僚の用意してくれたディナーというのは、ただの温かいシナモンドリンクでした。それでも、わたしにとっては、とびきりのごちそうでした。わたしは46歳、彼女はまだ21歳でした。そのため、わたしはいつも与えることばかりが頭にあって、受けることには考えが及んでいなかったのです。宣教師として、わたしたちには人に与えるような金銭はありません。その代わりに、愛と奉仕をささげてきたのです。同僚に知られな

いように、わたしは彼女のために、寒さから身を守るため、手袋とマフラーを買ってありました。それがわたしからの贈り物でした。ところが彼女は、世界中の黄金をもってしても買えないようなものを、わたしに贈ってくれたのです。それが愛と奉仕でした。

その晩、彼女からもらった贈り物を通じて、クリスマスは、自分自身の中の最も麗しいもの、すなわち心に抱く思いやりをささげるためにあるということを教えられたのです。ひどく

**同** 僚から  
もらった  
贈り物を  
通じて、クリスマスは、  
自分自身の中の  
最も麗しいもの、  
すなわち心に抱く  
思いやりを  
ささげるためにある  
ということ  
を  
教えられた  
のです。

ためらいながら、わたしは愛する同僚のために買っておいた贈り物を取り出しました。彼女の偉大な愛と比較しながら、<sup>ほんさん</sup>謙遜な思いになって、買っておいたプレゼントを差し出したのです。

伝道を終えて帰還し、クリスマスを迎える度に、あのすばらしいクリスマスの日のことを子供たちや孫たちに話して聞かせてきました。これからもずっと、クリスマスという聖なる季節があることに、天の御父とイエス・キリストに感謝の念を抱き続けることでしょう。そして、愛の模範を示してくれた同僚に対しても。■

ルシア・リベロ・ロメロは、メキシコシティ・テナヨステーク、ファレスワードの会員です。



# 家<sup>族の</sup> だれかが 何か奉仕の

行いをする度に、  
わらを1本抜き取って、  
かいばおけに  
入れることに  
したのです。



## かいばおけに入れるわら

スー・ジョーンズ

**子** 供たちの関心が、家庭という防護壁を越えて、そろそろ外に向き始めたころのことです。クリスマスもだんだんとサンタ的というか、派手に祝うようになっていきました。こうした興奮や期待が高まるにつれ、わたしたちの救い主の降誕が、心や思いからどんどん遠ざかっていくような気持ちがあったのです。そこで夫のボブとわたしは、クリスマスのほんとうの精神を取り戻し、家族全員にとって意義のある方法で祝いたいと考えました。ある年、わたしたちはお祝いの方法を考えて決め、我が家

の伝統にすることにしました。実際その後何年も、この方法で祝いクリスマスを意義深く過ごしています。

12月第1週の家庭の夕べの日に、クリスマスの季節を祝う方法の一つとして奉仕することに焦点を合わせてレッスンをすることに決めました。まずボール紙でかいばおけを作り、さらに入れ物を用意して、その中にわらをいっぱい詰めました。家族のだれかが何か奉仕の行いをする度に、そこからわらを1本抜き取って、かいばおけの中に入れることにしたのです。子供たちは先を争って何

か意味のある親切な行いをしようと思いました。そうすれば、幼子イエスのかいばおけにわらを入れることができるからです。その年、わたしたちは3回、かいばおけをいっぱいにすることができました。

ボブは、偶然、クリスマス用の飾りを売る店先で、旧式のランプを見つけ、買って来ました。そのランプは、わたしたちの宗教的なお祝いのクライマックスを飾るひらめきを与えてくれたのです。クリスマスイブの夜、家族でパーティーを開き、食事を終えると、子供たちはパジャマに着替えて、2階のいちばん大きな寝室に集まりました。そこは、降誕の場面を飾ってある居間から離れた部屋です。家中の電気を消し、子供たちに、これから生まれたばかりの王の王に会うため

に巡礼の旅に出かけるのよ、と説明しました。まず、伝統的なクリスマスキャロルを歌って旅の準備を始め、それから「神の御子は今宵しも」を歌いながら、居間に向かって進んでいきます。ボブが先導しますが、その手に掲げたランプは、ろうそくの光が揺らめきながら、行く手を照らしています。

小さな馬小屋に到着すると、静かに腰を下ろし、クリスマスキャロルをもう数曲歌います。そして、幼子イエスにかいばおけをプレゼントするのです。わらでいっぱいになったかいばおけは、わたしたちがこの1か月間かけて実践した愛の贈り物を表しています。愛の行いをしたいと思っただれでも、そうやって救い主に対する愛を表現してきたのです。そ

の晩は、主の御霊<sup>みたま</sup>がわたしたちの家にも、わたしたちの心にもありました。子供たちは静かに音も立てず、ベッドに戻って行きました。朝の来るのを楽しみに待ちながらも、同時に、降誕をお祝いしている幼子キリストに対する愛と感謝の念で心を満たしていました。

毎年クリスマスの時期になると必死で準備を進めますが、心の中には平安があります。それは、ほんのささやかであっても意義のある礼拝の時間を持つことができれば、少なくともある程度までは、クリスマスの商業主義に毒されずに済むと知っているからです。クリスマスの朝を待ち望む思いがどれほど高まろうと、子供たちは、毎年、生まれたばかりの王とともに過ごすクリスマスイブの特別な時間を楽しみに待っているのです。■

スー・ジョーンズは、ユタ州バウンティフルステーキ、バウンティフル第31ワードの会員です。

## クリスマス休暇に失業して

アイリス・リーマン

2001年1月、夫のピーターは失業しました。その直後に、わたしたちの3番目の子供が生まれました。その後、ピーターが500マイル(800キロ)も離れた所で仕事を見つけたため、わたしたちは大規模な引っ越しをしました。そして、ピーター自身は仕事を楽しんではいたのですが、その年はかなりの不況で、わたしたちも家賃や食費がやっとなという状況でした。わずかに蓄えておいた食料もすぐに底を突き、おまけにクリスマスも近づいていました。そんなとき、ピーターの会社の社長が、予想もしなかった「クリスマスのボーナス」をくれたのです。それは、ピーターのいる部署で働いていた社員全員を、1か月後に解雇するという通知でした。

こうして夫はまた失業してしまったのです。しかし、主はわたしたちを忘れてはおられません。ピーターは、何人かの会員から仕事を手伝うよう依頼され、そのことから得た収入で、経済的にも一息つけました。そして、わたしたちのクリスマスも忘れられてはいなかったのです。ある日、姉妹宣教師たちが我が家のドアのベルを鳴らし、ワードの匿名の家族に代わって包みを届けてくれたのです。開けてみると、かわいらしく包装された贈り物がたくさん入っていました。そして、一つ一つにわたしたち家族の名前が書かれていたのです。お金の入っている封筒もありました。

まるで、プレゼントだけでは十分でなかったとも言わんばかりの贈り物でした。

クリスマスイブには、またドアの

ベルが鳴りました。ドアを開けてみると、また、一つの包みがおいてあり、中には家族一人一人のために美しく包装された贈り物があったのです。わたしたちはほんとうに喜びました。わたしは天の御父が小さな奇跡を起こしてくださったことに心から感謝しました。そして、まだそこに住んで5か月しかたっていないのに、深い愛を示してくれた教会員たちに感謝しました。

あのような苦しいときにだれが助けてくれたのか、今でも分かりません。そして、救い主の次の言葉がいつも頭に浮かんで離れないのです。「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ……てくれたからである。」(マタイ25:35-36) ■

アイリス・リーマンは、オーストリア・ザルツブルクステーキ、ザルツブルクワードの会員です。



## クラムチャウダー物語

ゲリー・B・ランドバーグ

毎年、クリスマスには、わたしの大好物のクラムチャウダーを料理してくれるのが妻の恒例行事になっています。クリスマスの伝統にクラムチャウダーを加えたのは、それが単においしいからという理由だけでなく、わたしたちに対する救い主の無限の愛を思い起こさせるものだからです。食事が終わると、わたしたちはクラムチャウダー物語を語り始めます。それは何年も前、子供たちがまだ幼いころに実際に起きたことでした。

月曜日の夕方でした。仕事から帰る途中のわたしは、妻や子供たちと過ごす楽しい家庭の夕べのことを考えて心が弾んでいました。家の裏口に向かって歩いて行きながら子供たちが楽しく遊ぶ様子やテーブルの上に用意されている夕食を思い描いていました。しかし、実際は予想とは違いました。

妻のジョイは、ほんの一足先に家に着いたばかりでした。その日は忙しい一日だったようです。そのうえ、家に帰ると、子供たち一人一人が妻の気を引こうと必死です。子供たちの希望を聞いてみると、全員が、その晩のうちに終えなければならない宿題を抱えている様子でした。ジョイは疲れ切っていました。夕食の準備をし家庭の夕べを開かなければなりません。さらにジョイは、翌日の扶助協会の昼食会に集う姉妹たちのために60人分のクラムチャウダーを用意することになっていたのです。

わたしたちは仕事を分担することにしました。ジョイが食事の準備をし、わたしが子供たちの宿題を手伝います。そして短い家庭の夕べを開き、それからわたしが子供たちを寝かしつけて、ジョイはクラムチャウダーの準備に取りかかりました。子供たちは皆、9時半ごろまでには寝入りました。台所に行くと、ジョイは忙しそうにクラムチャウダーの下ごしら

えをしています。クラムチャウダーは時間がかかりかき、どちらかという気の抜けない料理です。ちょうどいい火加減でずっとかき回していないと、焦げついてしまいます。

ジョイは、翌朝8時には家を出なければいけません。だからクラムチャウダーはその晩のうちに仕上げておかなければならないのです。何か手伝おうかと尋ねると、一人で何とかするという答えでした。そのため、わたしは2階に上がって、電子工学の勉強に取りかかることにしました。

11時半ころのことです。ジョイが小さなボウルにクラムチャウダーを入れて、部屋に入って来ました。わたしはちょうどそのとき、回路基盤にパーツをはんだ付けしている最中でした。手を休めて見上げると、妻はもういなくなっていました。そこには湯気を立てたかぐわしいチャウダーがあるではありませんか。わたしはチャウダーをスプーンに山盛りにして、口に運びました。この上ない味がするはずですが、ところが、びっくり仰天しました。わたしは自分の味覚が信じられませんでした。ひどいものでした。焦げた味がします。これでいいはずがありません。妻にどう話したらいいのでしょうか。

わたしは、知恵と勇気を振り絞って、1階へ降りて行きました。妻は台所に座っています。絶望的で疲れ切った表情をしています。わたしはできるだけ優しい声で、妻に声をかけました。「ジョイ、これじゃあ人に出せないね。焦げついているもの。」妻は顔を上げると、泣きだしました。「あなたが気づかないことを願っていたのよ。わたし、ずっとかき回していたの。そしたら、突然、黒く焦げたかけらが上に浮かんできたの。すぐにコンロから下ろして、ほかのなべに移し変えたわ。何とか手遅れでないことを願ってね。」涙がとめどなくあふれてきます。妻はまったく気落ちしていました。「わた

し、もう疲れているの。こんなに遅い時間だし、材料を改めて買いそろえるだけのお金もないのよ。わたしたち、どうしたらいいの。」

わたしは妻を優しく抱き締めると、もう眠った方がいいと言いました。すると妻は、「そんなことできないわ。まだニンジンの皮をむいたり、刻んだりしないとイケないのだから」と言うのです。わたしは妻を連れて寝室まで歩いて行きました。一緒に祈りをささげると、妻はベッドに入りました。わたしがドアを閉めて台所に向かうころには、妻はもう寝入っていました。さて、わたしには一体何ができるのでしょうか。

わたしは料理の本を広げると、「乳製品が焦げた場合」という項目があるかどうか探してみました。そんな項目はありません。あらゆる問題を扱っているオールナイトのラジオ局に電話をしてみました。でも、つながりません。わたしは再度台所へ戻ると、ニンジンの皮をむき始めました。完全にパニックです。自分でできることはすべてやってみました。残る選択はあと一つです。わたしは、明かりのついていない居間へ行くと、ひざまずきました。

そのようなささいなことをお願いすることに、いささかのためらいを感じていました。しかし、ジョイにとっては決してささいなことではなかったのです。わたしは祈り始めました。「天のお父様。大きな



問題を抱えている人が大勢いることは存じております。でも、わたしはまったく行き詰まってしまったのです。自分で知っている限りのことはことごとくしてみました。この問題は家内にとってはほんとうに大きな問題です。だからこそわたしにとっても重大な問題なのです。妻は信仰も強く、求められることをすべて行おうと努力しています。」ここまで言うと、わたしは大きく息をしました。「ですから、お父様、お願いですから、朝が来る前に、クラムチャウダーから焦げた味を取り除いてください。そのようなささいなことをお願いするわたしをお救ゆるしてください。しかし、どうぞ妻を助けてください。」こうして、わたしもベッドに戻りました。

朝6時半ころ、ベッドの中で目を覚ました妻はこう言いました。「わたしは一体

どうすればいいのかしら。」わたしは妻に、ニンジンも刻んでおいたし、着替えてチャウダーの味見をしておいで、と言いました。妻は、ほんの少し、小さななべに入れて温め、味見をしました。わたしを見詰める妻の目には涙があふれています。「焦げもないし、焦げた味もしないわ。あなた、何をしたの。」わたしは、自分のしたことの一部始終を妻に説明しました。そして、二人で、天の御父がわたしたちの願いを聞き届けて与えてくださった祝福を実感したのです。わたしたちはひざまずいて祈りをささげ、わたしたちに注いでくださった愛と関心について天の御父に感謝しました。

**ク**ラム  
チャウダーの  
味見をした妻の、  
わたしを見詰める  
目には涙が  
あふれています。  
「焦げもないし、  
焦げた味もしないわ。  
あなた、何をしたの。」

主はどのような方法を取られたのでしょうか。わたしには分かりません。主はなぜこのような願いをかなえてくださったのでしょうか。わたしには分かりません。わたしが分かることといえば、主が「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」と言われたということだけです(マタイ7:7)。わたしは主を信じていました。そして、この度は、主はその祝福を賜ったのです。

ご安心ください。クラムチャウダーは確かに姉妹たちに出しました。そして、一人残らず、ほんとうにおいしいと言って褒め、作り方を教えてほしいと言ってくれたのです。

救い主がわたしたちに深い関心を寄せておられ、そして、どんなささいな事柄であっても救い主にとっては大切であるということを、自分や家族が思い起こすのに、クリスマスの季節は一年の中で最適の時なのです。■

ゲリー・B・ランドバーグは、ユタ州プロボ・エッジモントステーキ、エッジモント第14ワードの会員です。



# 御存じでしたか？

## 「昔、ユダヤの野辺に」

「昔、ユダヤの野辺に」(“Far, Far Away on Judea’s Plains”)は、英語版の賛美歌集にあるクリスマス曲の中で、唯一末日聖徒によって書かれたものです。1869年、ユタ州セントジョージに住むジョン・マクファーレンは、クリスマスプログラムに自分が率いる聖歌隊で新しいキャロルを歌いたいと思いました。懸命の努力にもかかわらず曲が作れないでいたところ、ある晩彼は夢を見ました。そして夢から覚めて作詞作曲したものが「昔、ユダヤの野辺に」です。この美しい曲はクリスマスの賛美歌に加えられ、教会内外で親しまれています(『賛美歌』126番参照)。



### 永遠の贈り物

「贈り物を交わすこのクリスマスに、神がその御子を遣わしてくださったことを、御子が命をささげてください。そして、そのおかげでわたしたち一人一人が永遠の命という贈り物を頂けることを、忘れないようにしましょう。」

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー  
“The Son of God”  
Ensign, 1992年12月号, 6



## 指導者へのヒント

指導者であるあなたは、計画し、祈り、クラスや定員会の会員に責任を委任しますが、それで終わるのではなく、助けを申し出なければなりません。委任した人たちの能力を信頼していること、また彼らを愛していることを伝えてください。自分で考えて行うように励ましてください。いつもあなたのやり方に従うように求めてはいけません。愛をもって導くなら、全員の技術と才能を伸ばせるように助けられるでしょう。

## ほんとうの友達ですか

友達は人生に大きな影響を与えます。あなたは、友達から最高の自分になれるように助けられていますか、それとも、友達に影響されて本来の道から外れようとしていませんか。次の質問に答えれば、あなたが友達から今どのような影響を受けているかが分かります。あなた自身がもっと良い友達になるのに役立つかもしれません。友達がそれぞれの状況にどのように応じるかを考えて、答えを選んでください。最後に得点の数え方を見て、合計点を出してください。

1. 楽しいパーティーに来ています、アルコールを飲む人が始めました。あなたが帰りがっていると、友達がこう言います。
  - a. そのとおりよ、帰りましょう。お母さんに電話して迎えに来てもらうわ。
  - b. そんなにいい子ぶらなくてもいいじゃない。少し飲んだからって害にならないわ。
  - c. もう少し楽しんでいかない？ あなたは飲まなければいいのだから。
2. 学校のダンスパーティーと一緒にいくようにデートを申し込まれましたが、16歳になるまでまだ2、3か月あります。行かない理由を話すと、友達はこう言います。
  - a. まさか本気じゃないでしょうね。絶対行かないわ。一年でいちばん大きなイベントなのよ。

- b. 別にいいけど。でも行かなければ、きっと後悔するわよ。今度だけ例外にしたら？
  - c. 分かったわ。ほんとうにそうしたいのなら。自分の信じるとおりに行動するのはいいことよ。
3. 地理の宿題の提出日が来ました。みんな、授業の前にお互いに答えを写し合っています。宿題をすっかり忘れていたあなたに友達がこう言います。
    - a. 気にするなよ。1回宿題を忘れたからってどうってことないさ。
    - b. 今からでも頑張れば、授業までに間に合うよ。
    - c. さあ急いで。ほくのを見せてあげるよ。写してもかまわないよ。
  4. 友達とレンタルビデオ店で映画のビデオを借りようとしています。友達がよくない映画を選ぼうとしたので、あなたは見ない理由を説明しました。すると友達がこう言います。
    - a. いいわ。ほかのにしましょう。
    - b. わたしの家で見るんだもの。あなたの両親には分からないわ。
    - c. ねえ、今度だけだから。そんなに悪い映画じゃないわ。

## 得点の数え方

1. a 3点 b 1点 c 2点
2. a 1点 b 2点 c 3点
3. a 2点 b 3点 c 1点
4. a 3点 b 1点 c 2点

**10-12点** 信念を支持してくれる素晴らしい友達です。あなた自身も良い友達となり、互いに義にかなった生活ができるように助け合いましょう。

**7-9点** 友達はあなたを大切に思ってくれているようですが、福音を实践する意味がよく分かっていないようです。あなたの信念を伝えるなら、きっと分かってくれることでしょう。

**4-6点** 福音を实践し、もっと善い人間になる助けをしてくれる友達ではありません。あなたを高め、信念を尊んで貫くように勧めてくれる人と友達になりましょう。



### 天の御父は耳を傾けてくださいます

2004年8月号にあるジョセフ・B・ワースリン長老の「祈りを改善する」という記事は、素晴らしいものでした。心の中にある思いを話すとき、天の御父は耳を傾けてくださることを知っています。また御父はしばしば人を通して祈りにこたえてくださいます。祈るとき、わたしたちは天の御父にもっと近づくことができます。

チリ・クリコステーク、テノ支部  
ルイス・マリオ・マルセロ・カルバヤル・アルセ

### 靈感の源

『リアホナ』は、たどるべき道を見いだせるよう助けてくれます。メッセージを伝えてくれる中央幹部に感謝しています。中央幹部はわたしたちを導くように天の御父から召された羊飼いです。わたしは、中央幹部の勧告に従うことで天の御父に愛を示しています。すべての青少年にも、そうするようチャレンジします。

コンゴ共和国・ブラザビルステーク  
キンソウンディワード  
アルデン・イエンゴ、17歳

### あかし 証が強められました

『リアホナ』に感謝しています。わたしは毎月『リアホナ』が届くのが楽しみです、受け取ると全ページを通読します。それから1か月かけて、各メッセージをもっとゆっくりと読みます。福音に従っ

て生きようと努力している教会員の個人的な経験を読むのが好きです。そのような記事を読むと、わたしも同じようにしなくてはと鼓舞されます。

メキシコ・モンテレー・モデルナステーク  
クウエタロワード  
ブランカ・カリロ・デ・ガルザ

### 預言者たちを研究する

2004年6月号の『リアホナ』にある「『歴代大管長の教え』を使ってレッスンを組み立てる」はとてもためになりました。その中で教えられていることから、大いに恩恵を受けています。『歴代大管長の教え』のシリーズは、わたしの蔵書の中でも特に素晴らしい書物です。今後出版される『歴代大管長の教え』を楽しみにしています。

ベルギー・アントワープステーク  
アントワープ第1ワード  
ギルバート・ステーブルズ

### 道しるべとなる光

バプテスマを受けたとき、宣教師から『リアホナ』をもらいました。それから毎年欠かさず定期購読しています。『リアホナ』はわたしの人生の素晴らしい道しるべとなる光です。天の御父は、『リアホナ』の記事、特に大管長会メッセージや教会の幹部が書いた記事の中で、質問への答えを下さいます。主はわたしが何を<sup>しるべ</sup>経験しているのかを御存じであり、御自分の僕を通して祈りにこたえてくださることを知っています。

ペルー・アルキバ・ザマコラステーク  
ベラウンデワード  
ロザリオ・エリサ・ゴメス・カスティラ

## 『リアホナ』を プレゼント してみませんか

**思**い出してください。教会のこ  
とを時々尋ねてくる職場の友人、あまり教会に来ていないホーム  
ティーチングの担当家族、カブけた  
い家族、伝道地で新しい言語を学ん  
できた帰還宣教師。この人たちは、  
あなたからの『リアホナ』定期購読  
のプレゼントをきっと喜んでくれる  
でしょう。

『リアホナ』は以下の言語で出版  
されており、自宅用またはプレゼン  
ト用として申し込むことができます。  
(発行頻度は言語により異なります。)  
——アイスランド語、アルバニア  
語、東アルメニア語、イタリア語、  
インドネシア語、ウクライナ語、ウル  
ドゥー語、英語、エストニア語、オラ  
ング語、韓国語、カンボジア語、キリ  
バス語、ギリシア語、クロアチア語、  
サモア語、シンハラ語、スウェーデン  
語、スペイン語、スロベニア語、セブ  
アノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ  
語、タミル語、中国語、チェコ語、テ  
ルグ語、デンマーク語、ドイツ語、ト  
ンガ語、日本語、ノルウェー語、ハイ  
チ語、ハンガリー語、ヒンディー語、  
フィジー語、フィンランド語、フラン  
ス語、ブルガリア語、ベトナム語、  
ポーランド語、ポルトガル語、マー  
シャル語、マダガスカル語、モンゴ  
ル語、ラトビア語、リトアニア語、  
ルーマニア語、ロシア語。

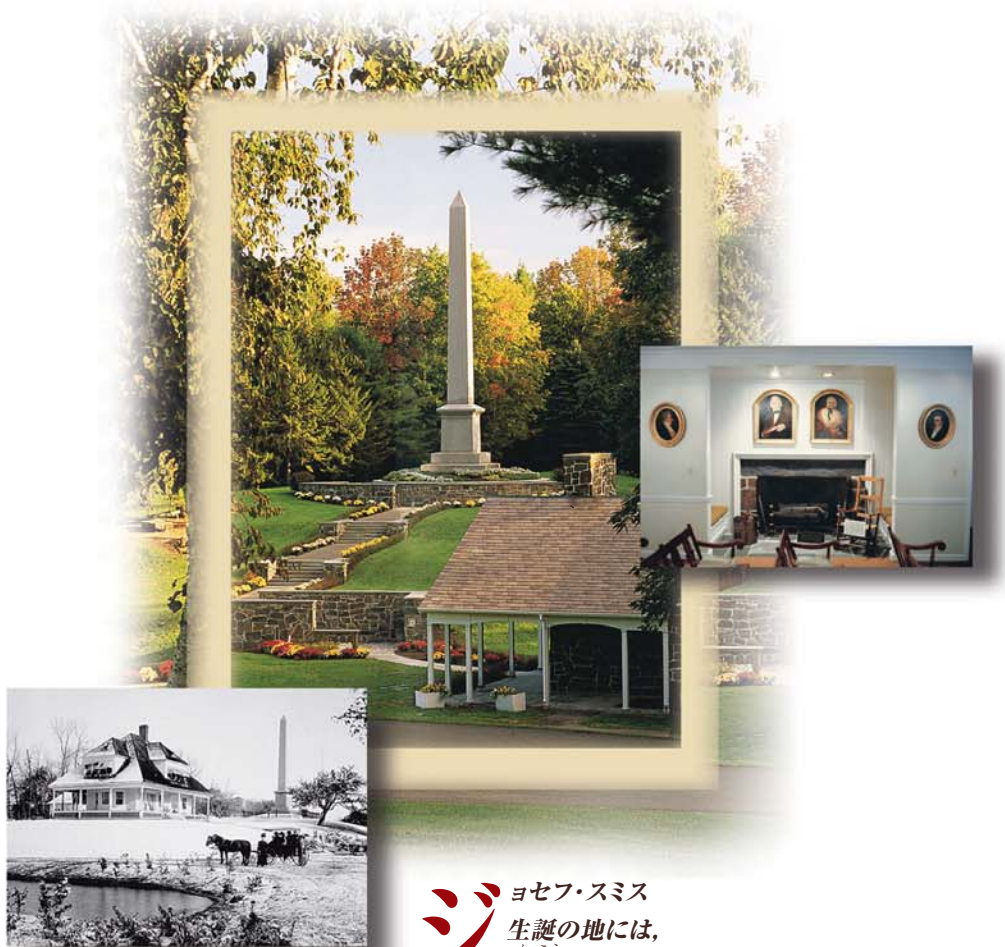
定期購読の申し込みや注文方法  
については、ワード／支部の指導者  
または地元の配送センターにお問  
い合わせください。



### 「心にある宝」 キャシー・ローレンス画

マリヤは「初子を産み、布にくるん[だ。]……人々はみな、羊飼たちが話してくれたこと  
〔すなわち天使がこの<sup>おきなご</sup>幼子こそ主なるキリストであられると告げたこと〕を聞いて、不思議に思った。  
しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。」

(ルカ2：7、18-19)



ジョセフ・スミス  
生誕の地には、  
かこう  
花崗岩でできた

記念碑(上, 左)と訪問者センター(右)がある。  
「200年前の12月にバーモントの田舎町で  
質素な境遇に生まれた赤ん坊は、偉大な指導者となり、  
神が地上の子供たちのために用意された計画を  
成就するよう予任されていたのです。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

「ジョセフ・スミス・ジュニア——  
神の預言者、偉大な僕」2ページ参照